

平成 21 年度 学習プログラム開発事業

家庭教育ブックを活用した 「親の学びプログラム」 の開発と検証について

「家庭教育ブックを活用した親の学び講座」 実践事例集



茨城県水戸生涯学習センター

家庭教育の重要性（家族の絆を求めるためには）

最近、児童虐待の増加や校内暴力、不登校といった子どもの問題行動が深刻化しています。その背景として、家庭の教育力の低下が指摘されています。今日の家庭教育については、個々の親の問題だけにとどまらず、社会の大きな変化の中で、子育てを支えるしくみや環境が整備されないことに目を向けなければなりません。

昔の日本では三世帯同居型の家庭が多く、親以外にも多くの大人が子どもに接し、それらが全体として家庭教育を担っていました。地域住民相互の人間関係も今より密接で、人々がどの家の子どもたちも「地域の子ども」として見守り、育てていたものです。ところが、急速な都市化の進展、職場と住居の分離などに伴い、家族の形態や生活様式は大きく変わり、核家族化や地域内の人間関係の希薄化が進んだ結果、今日では、子育ての負担が親にのみかかるようになってきました。子育ては母親中心という観念から、父親の家庭教育参加が少ない状況の中で、孤独な育児により困難な状況に追い込まれる母親がいる一方で、働く母親には仕事と子育ての両立に悩むといった問題があると指摘されています。家族を構成する男女が相互に協力するとともに、社会の支援を受けながら家族の一員としての役割を円滑に果たし、家庭生活と仕事や地域生活との両立を図ることができるよう支援することが、男女共同参画社会の実現の観点からも大切だと考えます。

茨城県水戸生涯学習センターでは、「学習プログラム開発事業」として、昨年までの3年間、現代的な課題に関する学習機会の提供について「モデルとなる家庭教育学級講座」のプログラム開発を進めて参りました。その中で家庭教育の重要性についてはこれからの社会にとって本当に大切な課題であると痛感しております。

そこで、今年度の学習プログラム開発事業では、茨城県教育委員会が昨年度作成した「家庭教育ブック」を活用した「親の学び講座」を実施するための、「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」の開発をすることにより、参加する保護者並びに指導者の学びの手助けになるよう工夫を加え、実際の『親の学び講座』の検証を行いました。

この冊子は、学習プログラム開発委員会が作成した「親の学びプログラム」と実際に実施した「親の学び講座」の実践例等をそれぞれまとめたものです。各市町村教育委員会並びに生涯学習関連施設等におかれましては、それぞれの県民の実情及び学習要求に十分対応していくために、この実践事例集を講座設定の際の参考にしていただくとともに、御意見・御感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本学習プログラム開発事業の実施に際しまして、快くモデル講座を引き受けいただきました各市町村教育委員会並びに学校関係者、そして計画立案及び御助言から実施後の分析・研究と御協力をいただきました茨城大学名誉教授の中原 弘之先生並びにプログラム開発委員の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成22年3月

茨城県水戸生涯学習センター管理事務所長 池 田 馨

目 次

I	学習プログラム開発の経過	1
1	事業の目的	1
2	学習プログラム開発の研究テーマ	1
3	研究テーマ設定の理由	1
4	研究の進め方	1
5	研究の内容	2
II	「親の学びプログラム」の活用を図るための手引書の作成	5
1	親の学びプログラムの使い方	5
2	アイスブレイキング・ロールプレイの方法	7
III	家庭教育ブックを活用した「親の学び講座」実践事例	9
①	待って見ていただけますか？	10
②	しかるってむずかしいですか？	15
③	「がまんの心」を育てる	20
④	「たくましい心」を育てる	26
⑤	「子どもがつまずいたときの子育て	31
⑥	「思いやりの心」を育てる	36
IV	家庭教育ブック活用状況について	39
V	成果と課題	41
1	成果	
2	課題	
VI	まとめ	42

I 学習プログラム開発の経過

1 事業の目的

少子高齢社会の進展，高度情報化の進展と知識基盤社会への移行，産業・就業構造の変化，グローバル化の進展，科学技術の進歩，家庭の教育力・地域の教育力低下等，近年の社会情勢の変化に対応するため，現代的課題に関する学習機会の提供について調査研究し，新たな学習プログラムの開発を実証的に進めることで，生涯学習の一層の振興を図る。

2 学習プログラム開発の研究テーマ

「家庭教育ブックを活用した『親の学びプログラム』の開発と検証について」
～家庭教育ブックを活用した親の学び講座～

3 研究テーマ設定の理由

県では，市町村やPTA等と連携あるいは協力して，家庭教育の重要性の啓発や保護者の意識改革を図るとともに，個々の保護者に対して学ぶ機会を設け，家庭の教育力の向上を図るために，「家庭の教育力向上プロジェクト事業」を展開し，平成20年8月に「家庭教育ブック」を作成した。

そこで，本研究はより一層の家庭の教育力向上を図るため，茨城県水戸生涯学習センター内に学習プログラム開発委員会を設置して，「家庭教育ブックを活用した『親の学びプログラム』」を開発し，県内の各市町村や幼稚園・小学校において，モデル講座「親の学び講座」を実施し，実証的に検証する。

4 研究の進め方

(1) 学習プログラム開発委員会の設置

① 目的

モデルとなる家庭教育学級講座の設定，講師選任から実施後の結果までを分析及び検証し，テーマに基づく新しいプログラムを開発することを目的とする。

② 組織

役職	氏名	所属・職名
委員長	中原 弘之	茨城大学名誉教授
委 員	皆川 正巳	茨城県教育庁生涯学習課 社会教育主事
	川俣 智	水戸市総合教育研究所 指導主事
	平山 洋美	大洗町教育委員会 指導主任
	佐藤 比呂美	水戸市内原中央公民館 社会教育主事
	志摩 邦雄	県北生涯学習センター 事業グループ長
	小島 佳子	鹿行生涯学習センター 社会教育主事
	大月 俊明	県南生涯学習センター 社会教育主事
	菅谷 和幸	県西生涯学習センター 社会教育主事
	大槻 啓子	水戸生涯学習センター 企画振興課長
	長谷川 馨	水戸生涯学習センター 社会教育主事

③ 開催

- 第1回 平成21年 4月28日(火) 事業の趣旨説明，日程・内容について
第2回 平成21年 5月28日(木) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」(マニュアル・ワークシート)の作成・検討
第3回 平成21年 7月28日(火) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」(マニュアル・ワークシート)の検討・完成
第4回 平成21年11月26日(木) モデル講座の分析，検証等
第5回 平成22年 1月21日(木) まとめ，実践事例集作成

(2) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム(※1)」の開発

都市化、核家族化等により、地縁的なつながりの中で子育ての方法を学ぶ機会が少なくなったこと等により、子育てに不安や悩みを持つ孤立しがちな親、子育てに無関心な親、しつけや教育に関して学校や他人任せの親が増加しており、家庭の教育力の低下が指摘されている。

家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」を開発し、活用することによって親同士が交流し情報を交換、共有しながら、悩みを解消したり、自分自身の問題点に気付いたりするとともに、子育てについて必要な知識やスキル等を主体的に学ぶことを目的とする。そのためには、誰にでも活用できるマニュアル・ワークシートの開発が必要となる。

(※1) 親の学びプログラムとは、ファシリテーター(学習支援者)【P6参照】が家庭教育ブックを活用するためのマニュアル及びワークシートをセットにした内容のものである。

(3) モデル講座「親の学び講座」の実施及び検証

開発した「親の学びプログラム」を活用した「親の学び講座」を各生涯学習センターにおいて実施し、検証する。

- ① 実施内容及び場所について
- ② 実施講座の現地調査
- ③ 学習プログラム開発委員会での検証

5 研究の内容

(1) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」の作成について

① 「親の学びプログラム」の開発の視点

「親の学びプログラム」を開発するために、学習プログラム開発委員会で協議し、下記の項目に視点を置き作成する。

ア 必ず、茨城県教育委員会が作成した「家庭教育ブック」の内容に準拠する。

イ 「親の学び講座」を実施する際に、講義形式ではなく、井戸端会議的な参加型学習【昨年度の学習プログラム開発(※2)で実証済】を取り入れ、参加者が主体的に学べるように「親の学びプログラム(マニュアル・ワークシート)」を作成する。

ウ マニュアルには、ファシリテーターが見て分かるように、ねらいや留意点、活用展開例を記載するよう心がける。

エ ワークシートには、アイスブレイキング【P7参照】、エピソード、ワーク、質問、アドバイス、参考資料等を記載するよう心がける。

(※2) 平成20年度 現代的な課題に関する学習機会の提供について(3年次)

【モデルとなる家庭教育学級講座】実践事例集による。

<http://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/houkoku/program/09.03.31.pdf>

参照

② 「親の学びプログラム」の項目選定

「家庭教育ブック」を活用した市町村の担当者やその事業へ参加した保護者等に対して実施したアンケートにおいて、「家庭教育ブック」の内容について「役に立った」との回答の中で、上位の項目は次の表のようになった。

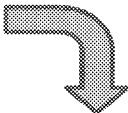
その項目の中から、家庭教育ブックを作成した「茨城県家庭の教育力向上推進委員会」の委員の意見を参考に、6つの項目を選定し、本年度の「親の学びプログラム」を作成する。

☆家庭教育ブックの内容についてのアンケート回答(複数回答)

	役に立った項目	人数
1	「子どもの話に耳を傾けていますか？」	453
2	「がまんの心」を育てる	419
3	「待って見ていられますか？」	418
4	「しかるってむずかしいですか？」	401
5	「自分のことは自分でする心」を育てる	363
6	「子どもがつまずいた時の子育て」	308
7	「一方通行のことばで話をしていませんか？」	304
8	「思いやりの心」を育てる	292
9	「心の安全基地になっていられますか？」	228
10	「きまりを守る心」を育てる	224
11	「お子さんのことを喜べますか？」	222
12	「努力する心」を育てる	209
13	「たくましい心」を育てる	187
14	「手の知恵・頭の知恵」を育てる	173
15	「進んで学習する心」を育てる	172

(平成20年度アンケート調査から)

「推進委員会」
委員の意見

- 
- ①「待って見ていられますか？」
 - ②「しかるってむずかしいですか？」
 - ③「がまんの心」を育てる
 - ④「思いやりの心」を育てる
 - ⑤「たくましい心」を育てる
 - ⑥「子どもがつまずいた時の子育て」

③ 「親の学びプログラム」の活用を図るための手引き書の工夫

(第Ⅱ章参照のこと)

ア 手引書作成にあたって

「親の学びプログラム」は、誰もがファシリテーターとして活用でき、講座運営ができるような内容にしなければならない。また、親の学びを支援するためには、ファシリテーターが「家庭教育ブック」及び「親の学びプログラム」をよく理解しなければならない。

そこで、事前にファシリテーターとしての心構えや支援の仕方が理解できるよう、下記のような項目が記された手引書を作成する。

- (ア) 「親の学びプログラム」とは
- (イ) 「親の学びプログラム」の特徴
- (ウ) 「親の学びプログラム」への参加について(心構え)
- (エ) ファシリテーターについて
- (オ) 用語あれこれ

イ ファシリテーターの心構え

「親の学びプログラム」を活用するためには、まずファシリテーターの心構えが大事になってくる。いかにすれば参加者の悩み等を引き出しうるか、そのための方法や流れを考える手段が記された手引書の作成を工夫する。

ウ ファシリテーターとしての展開の工夫

ファシリテーターの心構えの次の段階として、講座の展開の工夫が考えられる。初めてファシリテーターとして行う方も安心して展開できるように、導入部分の工夫(アイスブレイキング)や活動例(ロールプレイ)【P8参照】などの方法を紹介する。

④ 「親の学びプログラム」（マニュアル編）の工夫

ア 実施時間に合わせたプログラムの工夫

マニュアルを開発する上では、基本的に約50分の講座を実施すると想定し、作成することとする。しかし、実施時間が限られた場合も想定されるため、短い時間でも対応できるマニュアルの工夫について委員会で協議し、展開の中でファシリテーターが必ず押さえていなければならない部分を太枠で囲むものとする。

イ 導入の工夫

基本的には、「家庭教育ブック」を就学時健康診断時や新入生保護者説明会等で配布し、講座を実施するケースが多い。初めて会う保護者の方々の緊張をほぐすためにも、導入においてアイスブレイキング等の手法を取り入れる。

⑤ 「親の学びプログラム」（ワークシート編）の工夫

ア 気づきのためのワークシートの作成

保護者がワークシートを活用する中で自分の子どもの活動や家庭教育の大切さ等に対して、自ら気づくことのできるようなシートづくりを意図し、作成する。

イ イラストの工夫

ワークシートに差し込むイラストは、保護者の自由な思考の妨げとならないよう、また作成者側の誘導的な使用にならないよう配慮し、選定する。

(2) モデル講座（家庭教育ブックを活用した親の学び講座）について

① 実施内容及び場所について

開発した「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」をもとに、5つのセンターが分担して、下記のとおりモデル講座を実施する。

回	活用の機会	実施場所	シートの内容(テーマ)	担当
1	社会教育指導員研修会	ひたちなか市	たくましい心を育てる	水戸
2	家庭教育学級講座	水戸市	しかるってむずかしいですか	
3	家庭教育学級講座	水戸市	しかるってむずかしいですか	
4	家庭教育学級講座	大洗町	たくましい心を育てる	
5	家庭教育学級講座	水戸市	待って見ていただけますか	
6	家庭教育学級講座	神栖市	子どもがつまずいたときの子育て	
7	就学時健康診断	行方市	しかるってむずかしいですか	鹿行
8	就学時健康診断	石岡市	がまんの心を育てる	県南
9	おしゃべりティータイム	日立市	待ってみていただけますか	県北
10	就学時健康診断	筑西市	思いやりの心を育てる	県西

② 実施講座の現地調査

プログラム開発委員会の委員が分担し、実施するモデル講座へ出向き現地調査を行い下記の項目等の情報収集をする。

【調査項目】

- ・主催者及び参加者等へのアンケート調査
- ・ファシリテーターからの声
- ・家庭教育ブックの活用状況

Ⅱ 「親の学びプログラム」の活用を図るための手引書の作成

1 「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」の使い方

(1) 「親の学びプログラム」とは？

都市化、核家族化等により、地縁的なつながりの中で子育ての方法を学ぶ機会が少なくなっています。そのため、子育てに不安や悩みをもつ孤立しがちな親、子育てに無関心な親しつけや教育に関して学校や他人任せの親が増加し、家庭の教育力が低下していると指摘されています。子どもとの接し方、子どもの行動や心理の理解、しつけや親子のコミュニケーションなどの子育てに必要な知識やスキルについて、参加者同士の話し合いやワークを進め、互いに交流する中で、気づき学んでいく参加型の学習プログラムです。こうすればよいといった決まった答えがあるわけではありません。

(2) 「親の学びプログラム」の特徴

- ア 講義形式ではなく、井戸端会議的な参加型学習を取り入れ、参加者が主体的に学べるように支援するための学習プログラムです。
- イ 茨城県教育委員会が発行した「家庭教育ブック」の内容に準拠しています。
- ウ マニュアル編にねらいや留意点、活用展開例が記載されています。
- エ ワークシートには、アイスブレイキング、エピソード、ワーク、質問、アドバイス、参考資料等が記載されています。

(3) 「親の学びプログラム」の内容

家庭教育ブックの内容の中で、下記の内容についてマニュアル編とワークシート編とがあります。

- 子どもとかかわる
 - ・「待って見ていただけますか？」
 - ・「しかるってむずかしいですか？」
- 子どもの心を育てる
 - ・「がまんの心」を育てる・「思いやりの心」を育てる
 - ・「たくましい心」を育てる
- 子育ての心得
 - ・「子どもがつまずいた時の子育て」

(4) 「親の学びプログラム」の流れ

時 間	展 開	留 意 点
5～25分	○アイスブレイキング ・グループ分け	・参加者の緊張をほぐす ・雰囲気をやかにする ・グループを活動しやすい人数に分ける。
20～70分	○ワーク ・ワークシートを使用した話し合い	・エピソードなどをもとに、個人やグループでワークを行う。
5～25分	○ふりかえり	・参加者の気づきや、他の参加者の意見を聞き、学習の整理、共有する場とする。

(5) 活用方法

ア 学習形態

小グループで身近なエピソードやデータをもとに学習をすすめ、参加者同士が意見を交換し合い、交流しながら子育てに必要な知識やスキルを学ぶ。

イ 学習者

全ての保護者

ウ 主な指導者

家庭教育推進員（県で行う家庭教育推進員養成研修を終了した者）、子育てアドバイザーやサポーター、社会教育指導員、家庭教育相談員、家庭教育指導員、家庭教育学級役員、PTA指導者、保育士、教員、子育て支援ボランティア、保健師、助産師、社会教育主事等

エ 活用の機会

- ・学校等：入学説明会，PTA研修会，学級懇談会，保護者会，教育活動等
- ・地域等：家庭教育学級，子育てサークル，家庭教育支援サークル
- ・健診等：就学時健診，乳幼児健診
- ・各生涯学習センター：「家庭教育ブック」を活用した親の学び講座

(6) 参加者への配慮・留意点について（心構え）

ア 参加者の考えや感じ方を尊重しましょう。

- 相手の意見に耳を傾け，その人の立場に立って物事を考える。
- 一人で話をし過ぎないようにする。
- 発言は強制されず，人の話を聞いているだけでもよいことを伝え，話し下手な人の心の負担を軽減する。

イ 様々な方が参加していることを十分意識しましょう。

- 参加者は，様々な生活環境や考え方をもっていることを想定する。
- 身体や心に障害のあるお子さんのお父さん，お母さんが出席している場合もあることを考える。
- お父さん，お母さんが出席できずに，おじいちゃんやおばあちゃん，親戚の方が出席している場合もあることを考える。
- DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害者など人権上配慮すべき家庭の方が出席している場合もあることを考える。

ウ 積極的に参加できるよう心がけましょう。

- このプログラムは，参加者全員で作っていくプログラムなので，参加者全員が積極的に参加できるよう心がける。

エ プログラムで知った参加者の個人情報を持ち帰らないよう注意を喚起しましょう。

- グループでの話し合いなど，お互い安心した雰囲気の中で本音に近い話をするが，そこで知った参加者個人の情報はその場に置いていくのがマナーである。他の人に話したりしないよう伝える。

(7) ファシリテーター（学習支援者）について

ア ファシリテーターの役割

「親の学びプログラム」の指導者が「ファシリテーター」です。

しかし，「ファシリテーター」という表現は，参加者にとって一般化している「リーダー」，「インストラクター」と比べますと，まだまだ，身近な言葉ではありません。そこで，「ファシリテーター」を「学習を支援する人」としてとらえてほしいことを参加者に伝え，ファシリテーター自身は，参加者の感じたことや考えたことを共有し，肩の力を抜いて本音と呼ばれるものを引き出すことやどのような意見でも出しやすい自由な雰囲気づくりを大切な役割としていきます。

イ ファシリテーターのすべきこと，してはいけないこと

○ すべきこと

- ・参加者一人一人を尊重し，安心して参加できるように支援すること。
- ・一人一人の発言に耳を傾け，プログラムの進行に生かすこと。
- ・参加者全員に気を配り，全ての人が参加できるように支援すること。

● してはいけないこと

- ・参加者に発言を強要したり，故意に一部の人だけの意見を聞くこと。
- ・参加者の発言を批判したり，自分の意見を押しつけたりすること。
- ・プログラムの中で知った参加者の個人情報を他の人に漏らすこと。

※ ファシリテーターには，参加者が主体的に考え，発言できるよう一人一人を支援することが求められます。参加者の主体的な話し合いや体験活動などから，大きな気づきへと導いていくことが大切です。

2 アイスブレイキング・ロールプレイの方法

(1) アイスブレイキング

アイスブレイキングとは、直訳すれば「氷（ice）を粉砕（break）する」という意味です。学習プログラムにおいては、参加者の氷のように固まった「身構えた状態」の心をリラックスさせ、自分を自由に表現できる準備状態にすることを意味します。

親の学びプログラムは、「導入」「展開」「まとめ」という流れを基本に構成されています。この流れをスムーズにし、学習の効果を高めるために「導入」はとても大事な時間です。参加者には“動機づけ”の視点からもこのアイスブレイキングは重要なポイントになります。

【アイスブレイキングの一例】

（所要時間：10分程度）

☆ 魔法のマイク

▼ 人数：10～30人

▼ 準備：古いマイクまたは柄つきのたわし（イラスト）

自己紹介の時に、「今から話してよいのはこの魔法のマイクを手をしている人だけです。他の人はマイクを持っている人の話を聞かなければなりません」と説明し、魔法のマイクを順番に回します。1周目は姓だけ、2周目は姓名、それ以降は出身地と姓名、誕生月と姓名などと紹介項目を増やしていき、徐々に相互理解を進めます。

☆ 4つの部屋

▼ 人数：10人以上

▼ 準備：会場の四隅の壁にA・B・C・Dと書いた紙を提示

会場を4つの部屋と仮定して、例えば「私は野菜が好きだ。そう思う人はA、どちらかといえばそう思う人はB、どちらかといえばそう思わない人はC、そう思わない人はDの部屋に移ってください。」と問いかけ移動してもらいます。さらに、「家庭の教育力は低下している」や「親になるためには学習が必要である」など、本日の学習テーマに関する問いかけをしたり、集まった人たちに「なぜそう思うか」をたずねたりすることで、問題意識を共有することもできます。

☆ 私を知って！

▼ 人数：何人でも

▼ 準備：A4版の紙

紙を折って四分割し、右の図の項目について書き込んでもらいます。その後、この紙をもとに多くの人と自己紹介し合います。

書き込む項目に「自分の子どものことで、最近一番うれしかったこと」などを設けてもよいでしょう。

名 前	このまちのすきなところは？
このまちにいつから住んでいるか？	最近あったとてうれしいことは？

☆ 人数を集めろ

▼ 人数：10人以上

▼ 準備：特になし

指導者の「せーの」のかけ声で、指導者と参加者が一緒に、手拍子を1つずつ増やしながらかきます。「せーの」バン、「せーの」バンバン、「せーの」バンバンバン……と。指導者の「はい！」との声かけで、最後の手拍子の数の人数で集まり、手をつないで輪になります。指定した人数が集まらなかった方に簡単に自己紹介をしてもらいます。手拍子の数は減らしたり増やしたりランダムにして繰り返します。

次のワークへのグループ分けにも用いることができます。

(2) 「ロールプレイ」

ロールプレイとは、ロール（役割）をプレイ（演技）するという意味です。ある特定の（自分と違う）立場の人（場合によっては、動物やモノの場合もある）になったつもりで、想定された問題について考え、表現することで、課題について理解を深められます。

与えられた役柄を演じ、話し合うためには、その役柄や扱っているテーマについての知識や想像力、情報が必要です。また、話し合いを通して課題が明確になってくれば、さらに資料集めやインタビューなどを行うことによって、その課題についての理解を一層深めることができます。

【ロールプレイの進め方のパターン例】

☆ 参加者全員を登場人物の数にグループ分けし、それぞれのグループに配役する。

① 各グループに「役柄カード」を配り、よく読んで、グループ内でその役柄について話し合う。

② 各グループから1人、代表者を出し、グループ内での話し合いの内容に沿って、全員の前でそれぞれの役柄を演じ、意見を言う。

③ 参加者で作り上げることをめざし、全員で話し合う。

④ 時間に余裕がある場合は、途中で話し合いを中断して課題を整理し、グループ毎に調査や話し合いを行った上で再開する。

☆ 参加者の中から登場人物の数だけ代表を選び、他の参加者の前で演じる。

① 代表者に「役柄カード」を配る。

② 代表者は、「役柄カード」に沿って役柄を演じ、意見を言う。

③ 登場人物（演じ手）による話し合いが決裂した状態でストップする。

④ 各登場人物はどのような考えだったのか、参加者全員で話し合う。

⑤ 解決策について、全員で話し合う。

参考文献 : 親の学習プログラム集の手引き(埼玉県教育委員会)
: 親学習プログラム(栃木県教育委員会)
: 親なびワーク(三重県教育委員会)

Ⅲ 家庭教育ブックを活用した「親の学び講座」実践事例

実践事例一覧

事例	項目(テーマ)	講師(ファシリテーター)	活用の機会	主な学習形態
1	待って見ていられますか？	日立市家庭教育サポーター	おしゃべり ティータイム	一斉 小グループ
2	しかるってむずかしいですか？	行方市社会教育指導員	就学時健康診断	一斉 小グループ
3	「がまんの心」を育てる	石岡市生涯学習推進員	就学時健康診断	一斉 小グループ
4	「たくましい心」を育てる	水戸生涯学習センター 社会教育主事 他	家庭教育学級講座 (幼稚園保護者)	一斉 小グループ
5	「子どもがつまずいたとき の子育て」	水戸生涯学習センター 社会教育主事	家庭教育学級講座 (第3学年保護者)	一斉 小グループ
6	「思いやりの心」を育てる	マニュアル・ワークシートのみ		

○ 実践事例の構成について

それぞれの実践事例に対して、家庭教育ブックからの引用と「親の学びプログラム(マニュアル・ワークシート)」を掲載しています。実践事例については、与えられた時間の中で行った内容です。参考にしてください。

○ 家庭教育ブックのダウンロードについて

<http://www.edu.pref.ibaraki.jp/board/syogai/katei/book.pdf>

○ 親の学びプログラム(マニュアル・ワークシート)のダウンロードについて

<http://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/houkoku/program.htm#h21manabi>

○ マニュアルの活用について

それぞれの項目のマニュアルにおいて、太い枠で囲まれている所が、必ず押さえて欲しい内容です。(時間が短いときにはその部分のみの内容で実践してみてください)

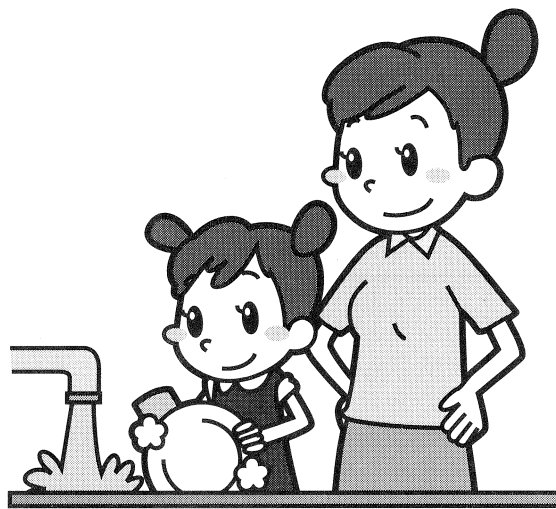


待って見ていられますか？

ふだんの子育てを振り返って「はい」ならチェック(✓)をいれてみてください。

子育て、どうしていますか

- ☐ 子どもは、言われたことをすぐにするのが当たり前と思っていますか。
- ☐ 子どもがうまくできないと、すぐにやってあげてしまいますか。



※ 散らかった部屋を片づけるように言っても、すぐには片づけてくれません。しかし、ちょっと待ってあげると、怒らなくても片づけをします。

※ どんなことでも、すぐには上達しません。子どもの発達を信じて待つことを忘れてしまうと、口出し、手出しが多くなり、発達を遅らせます。

「待つ」ポイント

- (1) 子どもには子どものやり方とペースがあります。子どものやることを寛大な目で見てあげられると、待つことができます。
- (2) 子どもの伸びる可能性を信じてあげられると、待つことができます。

ちょこっとアドバイス

親の出番を間違えないで
子どもが越えなくてはならないハードルを親が取り払ってしまったら、子どもは成長しません。子どもが自分で考え、越えるべきことなのか、それとも親がハードルを取り除いてあげる問題なのか、親の出番とそうでない時とをよく考える必要があるのではないのでしょうか。



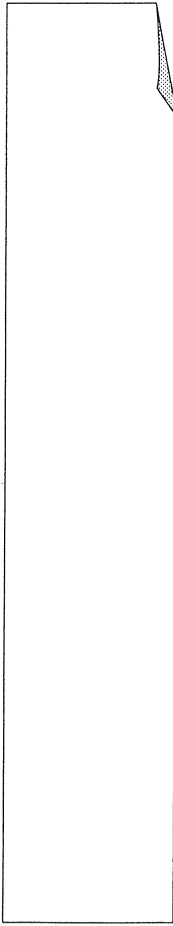
タイトル	子どもとかかわる1 待って見ていただけますか？ 家庭教育ブック (p.5)
ねらい	参加した保護者の意見、気づきなどの話を聞く中で、自分の子供に普段どのようにかかわっているかに気づき、改めてどのようにかかわっていけばよいのかを考える。
事前準備	・ワークシート ・筆記用具 ・名札 ・ホワイトボード ・家庭教育ブック

時 間	展 開 例	学習支援者の留意点(展開のポイント)	備 考
導 入 (10)	○ワークの趣旨説明 ・学習のねらいを確認 ○アイスブレイキング ○グループ分け ・4～5名程度に分ける ○自己紹介 ・名前 ・最近、子供や学校等の周囲の環境について気づいたことを話す。	○硬くならないように説明は短く ○特別な準備はいらない。自分自身を扱う。 ○一人の気づきがグループの気づきとなることを意識させる ・参加者がリラックスすること。参加者同士が、同じ親としての共感や安心感を得る。 ○ダイヤード(ラテン語：1対の) ・時間が取れるときには、2人一組で自己紹介をし、その後隣の組と合わせる。 ・自由に話す	ホワイトボード ※ポイントを表す ワークシート
ワーク1 記入(10)	ワーク1 日常の振り返り ○シートに書き込み ・子どもを叱る時の私状況、叱り方、子どもの反応(その時、その後) ・子どもをほめる時の私状況、ほめ方、子どもの反応(その時、その後)	○シートへの書き込み ・箇条書きでよい ・叱る = 禁止や行動をそくす場合に多い大きなお目玉だけでなく、よく言う小言にも意識を向けさせる。 ・ほめる = 何に対してほめたか？どのような言動、結果 ・自分と子どものふるまいを具体的に思い出す 子どもがアピールしてきたこと 子どもが返してきた言葉や態度 ・その時の自分の思考や感情 ○聴く、話す ・シートに書かれたことを話す ・時間があれば、自由に話した後全体に発表してもらう。その言葉を忠実に板書し、挙げられた気づきを基に、もう一度グループワークを行う。	ワークシート
発表(10)	○グループで発表 ・叱る、ほめる毎に一人ずつ発表 ・最後に自由に話す ○気づいたことをシートに書き込む		
ワーク2 記入(10)	ワーク2 かかわり方 ○シートに書き込み ・子どもを叱るとき ・子どもをほめるとき	○シートへの書き込み ○子どもとかかわり方 ・自分と子どものふるまいを具体的に書き出す ・その時の自分の思考や感情も書く	ワークシート
発表(10)	○グループで発表 ・一人ずつ発表 ・最後に自由に話す ○気づいたことをシートに書き込む	○他人の気づきも自分の気づきとする	
まとめ (5)	○グループの代表がワークの内容を全体に伝える。	○一人の気づきを全体で共有する ○家庭教育ブック(p.5)で確認 ・次への行動を意識させ終了する	家庭教育ブック

ワークシート 子どもとかかわる1

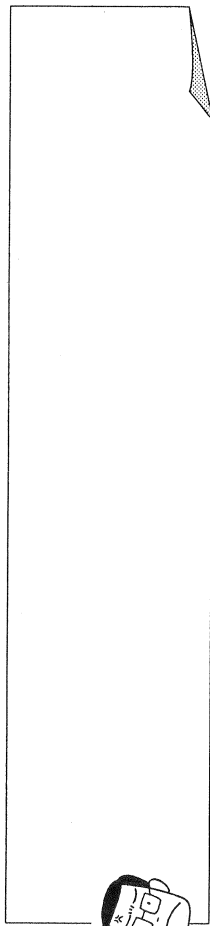
自己紹介をしてみましょう

○ 最近、子どもや周囲の環境で気づいたことはなんですか？

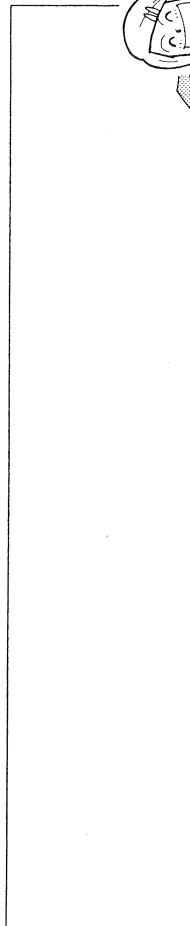


1. 子どもの普段のかかわりは？

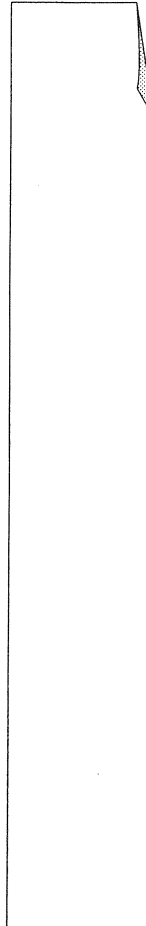
○ 子どもをしかる



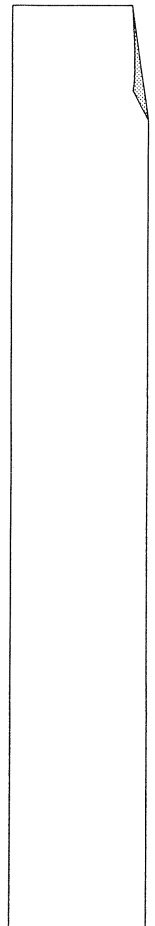
○ 子どもをほめる



○ 気づいたこと

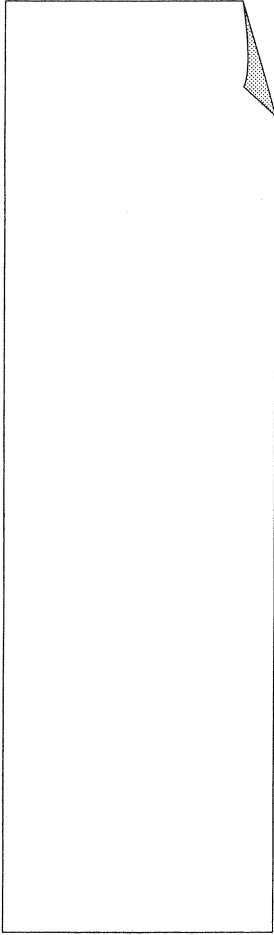


○ グループで発表してみましょう

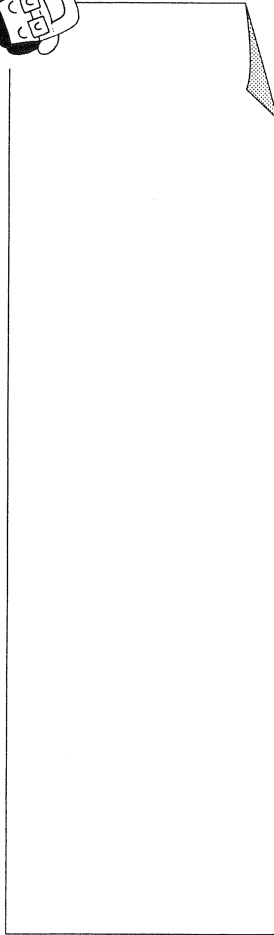


2. 本当は子どもとどんなふうにかかわりたい

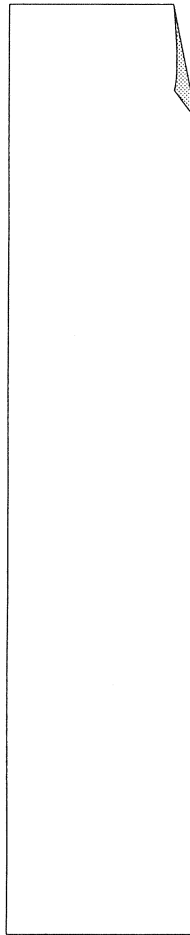
○ 子どもをしかる



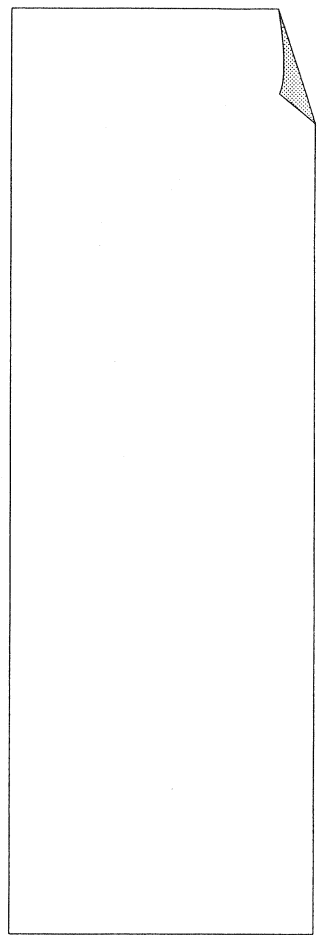
○ 子どもをほめる



○ 気づいたこと



○ グループで発表してみましょう

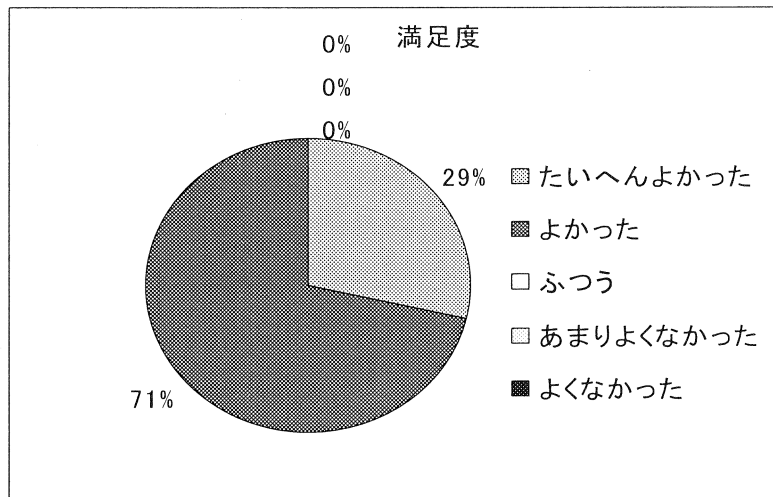


事例1 「待っててもらえますか？」（家庭教育ブックP5）の実践例

日　時	平成21年11月6日(金)　午前10時～11時30分		
会　場	日立市教育プラザ ギャラリーB		
テ　マ	おしゃべりティータイム・待って見ていただけますか？		
学習形態	一斉・小グループ(情報交換)・個人		
参 加 者	未就学園児及び小学生保護者(7名)		
講　　師	○　日立市家庭教育サポーター　3名		
時　　間	学習内容・活動	形　　態	講師（ファシリテーター）としての心得
10:00	・受付 ・お茶を自由に飲む。 ・同じ部屋の中で託児を実施。 ・親子で安心空間。 ・講師自己紹介 3人の経歴・子育て経験など	一斉	・話しやすい環境づくり リラックスした雰囲気を作る。
10:10	1．アイスブレイキング（フリートーク） ・自己紹介　家族構成 ・参加の動機・期待すること ・園生活、小学校生活や子育てについて、自由に話し合う。 2．テーマトーク ・グループ編成 ○ 未就学児園児保護者グループ ○ 小学生保護者グループ ・子どもとの普段のかかわり ・本当は子どもとこんなふうにかかわりたい ○ テーマに沿って普段の生活を振り返り、体験をグループで共有する。 3．全体発表 ・今日の感想，気づいたこと，実践したいこと等	一斉 グループ 個人	・少人数のためここでは，グループ分けせず，全体で話し合う。 ・一人ひとりの話に耳を傾け，全体で共有する。 ・講師が積極的に共感する。 ・どうしたい，どうしたかった等，参加者の言葉を引き出す。 ・今日の振り返りをし，言葉にすることで，再認識を即す。
11:10	<li value="4">4．講師のまとめ ・3名の講師によるまとめ。	一斉	・感想や次につながるまとめをする
11:30	<li value="5">5．お楽しみタイム ・小さな子どもたちのために，親子で手遊びや紙芝居を見ます。		

<アンケートの結果>

①満足度



②講座を受けて

- 「待って見ていただけますか？」日頃の自分の行動を見直せた気がする。
- とても良い刺激となり、子育てで悩んでいるのは自分だけではないと、とても安心した。
- 少人数で楽しく話し合いができ、子育てをがんばろうと思えた。

③今後話し合ってみたいテーマは

- 先生や保護者同士のかかわりについて（子供同士にトラブルがあった時など）
- 「しかる」こと、「ゆるす」ことについて
- 父親や姑とのかかわり方について
- 子どもの食事について

<講座を運営して>

講座運営の構成は、主催者の目標・趣旨、対象者などで異なる。逆に言うと、講座運営の構成は、誰を対象に、何の為に実施するのか、何を持って成果とするのか等を主催者でよく検討し、決定するべきである。特に、連続講座を実施する場合は、毎回の反省や気づきを受けて生成発展させていくことで、より有意義な講座となる。それらのことを通じて、主催者自身が力をつけることができる。

講座をリードするファシリテーターは、時間を強く意識する必要がある。終了時間を設定してある以上、1分1秒を大切にするという意識が密度の濃いワークを可能にする。そのために、参加者を急かすのではなく、アイスブレイキングで関わりや興味をしっかりと引き出し、やってほしいことを具体的に指示することが重要である。指示には、「例えば～」というようにイメージしやすい体験談などを交えて短時間に伝える。

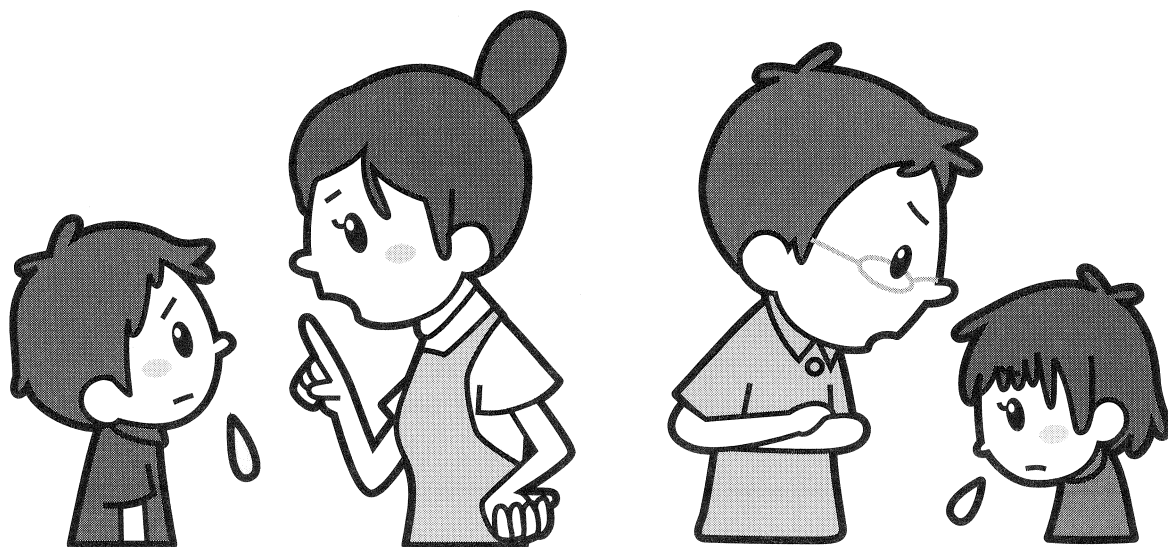
ファシリテーターの話し方や、ふるまいは、参加者に大きな影響を与えることを自覚する必要がある。ましてや意見、考えはなおさらであり、事実を見せていくことが重要である。しかしながら、事実のどこを切り取り見せるかにも主観は必ず入るので、講座の主旨や主催者の事前の打合せが非常に重要になってくる。そのことにより、ファシリテーター自身が多くの言葉(認識)を引き出しておくと、キーワードが参加者にしっかりと伝わる結果にもつながる。

しかるってむずかしいですか？

ふだんの子育てを振り返って「はい」ならチェック(し)をいれてみてください。

子育て、どうしていますか

- ☐ しかると子どもは、親を嫌うようになっていきますか。
- ☐ 一度しかれば、子どもは言うことをきくものと思いますか。



※ 「しかる」ことは、自分に危ないことはしない、人がいやがることはしない、社会に許されないことはしない、ということを教えることです。

※ しかられても子どもは親を嫌ったりはしません。しかられたとき、子どもの心はピリッとします。「しかる」ことは、料理の隠し味に塩を使うようなものです。

「しかる」ポイント

- (1) 悪いことは悪いと教えることは親の義務であり、責任でもあります。戸惑うことなく、毅然としてしかってください。
- (2) してはいけない行為だけを、「それはいけない」と短い言葉でしかってください。そして、その理由を分からせてください。

ちょこっとアドバイス

親は子どもの太陽

親だって悩みもあるし、ストレスもあります。イライラして子どもをしかってしまうこともあります。

でも、親が笑顔でいれば子どもは安心して生活できるし、自分の居場所をもてます。「親は子どもの太陽」でありたいものです。



タイトル	子どもとかかわる5 しかるってむずかしいですか？ 家庭教育ブック(P9)
ねらい	毎日の生活の中で、子どもの行為を適切に「叱る」ために、親はどのようにかわっていったらよいかを考える機会とする。
事前準備	・ワークシート ・筆記用具 ・家庭教育ブック

時間(分)	展 開 例	学習支援者の留意点	備 考
導 入 (10)	○ワークの趣旨説明 ○自己紹介と自分の子どものよいところを話す。	○参加者が自由に意見を出しやすい、うちとけた雰囲気をつくる。	
	○アイスブレイキングをとおしてグループ分けを行う。		
ワーク 話し合い (5) 話し合い (5)	ワーク1 ○「叱る」と「怒る」の違いについて感じることを話し合う。 ○最近どんなことで自分の子どもを叱ったか、あるいは怒ったか、話し合う。	○具体的な例などを挙げて話し合えるようにする。 ○話し合いのなかで得た個人情報については、話し合いのなかだけでの情報共有である旨、注意を喚起する。	
ワーク2 記入(5) 話し合い (10)	ワーク2 ○ワークシートの質問に答える。 ○いくつかの事例を取り上げ、その対応の仕方について話し合う。 ○しかり方の度合いを決める基準は何かを考え話し合う。	○ワークシートへの書き込み ○正解はないことを強調し、自由にたくさんの意見を出してもらうようにする	ワークシート
ワーク3 記入(5) 話し合い (10)	ワーク3 ○今日の学習から気づいたことを記入する。 ○これからの子どもへのかかわり方を考えグループ内で意見交換をする。	○今後の子育てについて考えてもらう契機とする。 ○他の意見から様々なかかわり方や考え方があることに気づかせたい。	ワークシート
ま と め (5)	○グループの代表者が話し合いの内容を全体に伝える。	○学んだことを今後の日常生活で生かせるように意識させる。 ○家庭教育ブックを参照して、「しかる」のポイントを確認する。	家庭教育ブック

ワークシート 子どもとかかわる5

1 こんなこと，子どもがしたらどうしますか？

- ① 1～10の事例について，あなたはどれくらいの感じでしかりますか。
4つのしかり方の度合い中で，当てはまると思うものの番号に○印をつけてください。

1. 朝，自分で起きない
2. 本人の目の前で「おじいちゃんの頭，はげてる」と言う
3. 本人がいないところで，「おばあちゃんの料理美味しくない」と言う
4. わざと水たまりに入り，服を汚す
5. 階段でおいかけっこをする
6. 床に落ちたものを食べる
7. 左右を確認せずに，横断歩道を渡る
8. 電車や車の中で大声で騒ぐ
9. 花のつぼみをおもしろがってとる
10. 友だちの外見をからかう

しかり方の度合い				上記の事例の番号									
かなり強くしかる	・・・	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
強くしかる	・・・	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
あまりしからない	・・・	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
しからない	・・・	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		

- ②しかり方の度合いを決めるあなたの基準は何ですか？

〔例〕・・・「なんとなく」etc

2 学習をふりかえり，子どもとのかかわり方を考えてみましょう。

事例2 「しかるってむずかしいですか？」（家庭教育ブックP9）の実践例

日 時	平成21年10月1日（木）14：15～14：40		
会 場	行方市立太田小学校 家庭科室		
テ ー マ	しかるってむずかしいですか？（家庭教育ブックP9）		
学習形態	小グループ（情報交換）		
参 加 者	平成22年度新入学生保護者（15名）		
講 師	○ 行方市社会教育相談員3名		
時 間	学習内容・活動	形態	講師（ファシリテーター）としての心得
14:15	1 グループ分け 2 ワークの趣旨説明 3 自己紹介を兼ね、最近どんなことで自分の子どもをしかったかを話す。 4 ワークシートの質問に答える。 ・10の具体的な事例について、どの程度の感じでしかるか、番号に○をつける。 ・しかり方の度合いを決める基準は何かを考え話し合う。 5 今日の学習から気づいたことを記入する。 6 これからの子どもへのかかわり方を考え、グループ内で意見交換をする。	一斉 グループ	・ゲームなどをおとして無作為にグループ編成をする。 ・ゲームなどを参加者が主体でやり、意見を出しやすい雰囲気をつくる。 ・話し合いのなかで得た個人情報については、話し合いのなかだけでの情報共有であることを確認する。 ・正解はないことを強調し、自由にたくさんの意見をだしてもらうようにする。 ・メモ程度でもよいことを助言する。

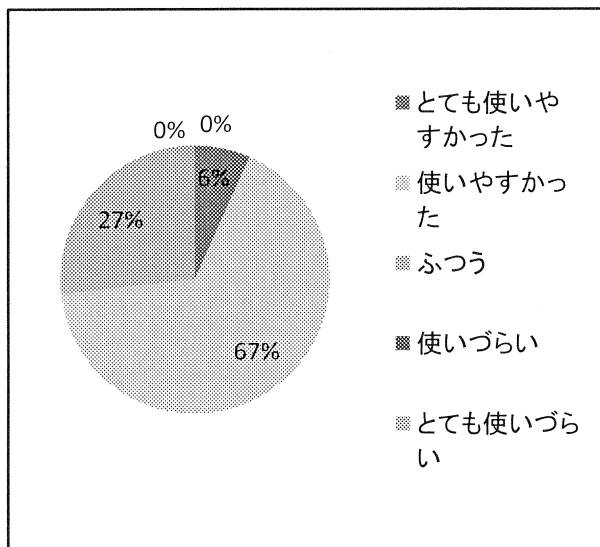
<活動の様子>



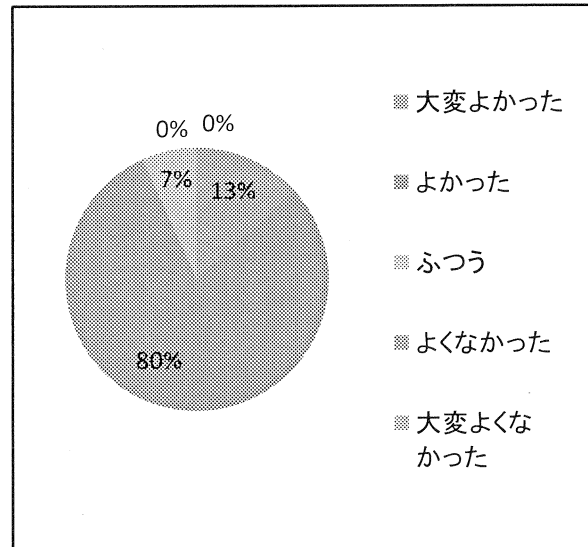


＜アンケートの結果＞

①ワークシートの使い良さ



②研修会に参加して



③参加者の感想

- ワークシートがあったので、意見をだしあうきっかけになり、よかった。
- 一方通行の講義ではなく、みんなの意見を聞いてよかった。
- 今日のように、改めて「しかる」ことについて考えることは大事なことだ。
- 命やけがにかかわること、他人の気持ちを傷つけたりする行為については厳しく叱り、あとは、できるだけ伸び伸びと育てたい。
- 子育てについて真剣に考えるいい機会だった。

＜講座を運営して＞

「講義形式ではなく、井戸端会議的な参加型学習」という形態が「親の学びプログラム」の最大の特徴としてあげられているので、参加者の本音トークをなるべく多く引き出せるよう、時には多少あえて脱線しながらも、参加者の肩の力を抜かせる工夫が必要である。

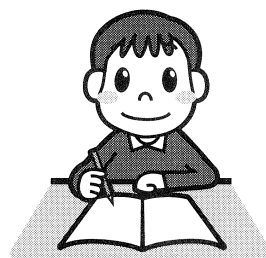
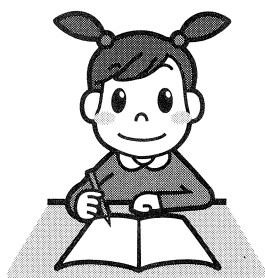
今回の実地検証では、経験豊かな3名の行方市教育委員会生涯学習課 社会教育指導員の方の力量で予想以上にリラックスした雰囲気の中、話し合いが盛り上がっていた。

「がまんの心」を育てる

ふだんの子育てをふり返って「はい」ならチェック(し)をいれてみてください。

子育て、どうしていますか

- ☐ 子どもが最後までやりとげなくても、そのままにしていますか。
- ☐ 子どもの欲しがるものは、つい買ってあげてしまいますか。



※ 勉強には根気が必要です。面倒がって投げ出してしまっは、学力はつきません。自分に対するがまん(忍耐)がないと勉強は続きません。

※ 子どもが物を欲しがるのは当たり前です。物の豊富な社会を生きる子どもたちだからこそ、物に対するがまんの心を育てなければなりません。

「がまんの心」を育てるポイント

- (1) 小さながまんが、大きながまんの心を育てます。低額な物でも子どもが欲しがるままに与えないでください。小遣いの与え方や金額もがまんの心を育てる大事なしつけです。
- (2) 途中で投げ出そうとしたとき、「もう1回、このところまでやろう」と励ましなが、やらせてください。この「もう1回」が自分に対するがまん(忍耐)を育てます。

タイトル	子どもの心を育てる2「がまんの心」を育てる 家庭教育ブック（P12）
------	------------------------------------

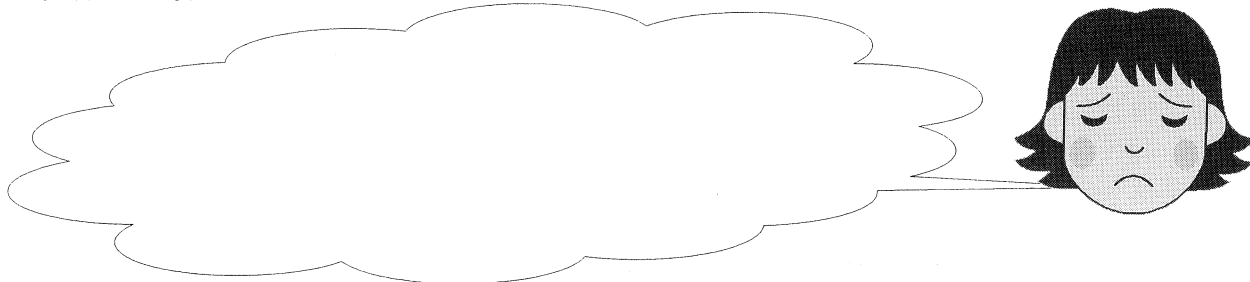
ねらい	自分の思い通りにいかなかった子どもに対して、親はどのようにかかわっていくのかを考える機会とする。
-----	--

事前準備	・ワークシート ・エピソード ・筆記用具 ・家庭教育ブック
------	-------------------------------

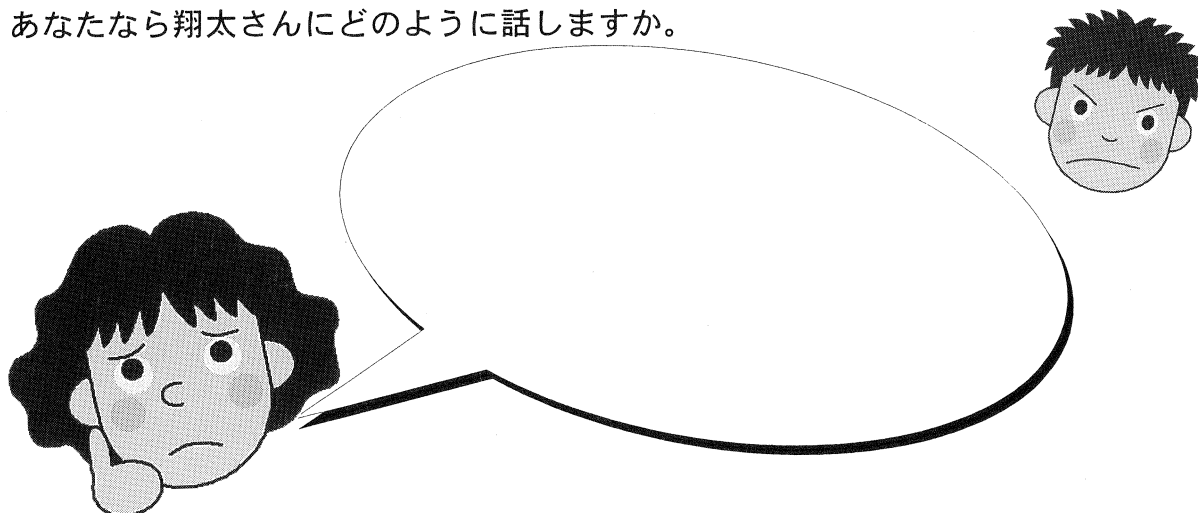
時間(分)	展 開	学習支援者の留意点	備 考
導入(10)	○ワークの趣旨説明 ○アイスブレイキング ○グループ分け	○趣旨の説明とともに、今日からがみんなで子育てについて考えていくスタートであることを意識させる。 ○場を和らげ、打ち解けた雰囲気を醸し出す。 ○1グループ5人程度の話しやすい人数に分ける。 ○各グループの進行役を決める。	
エピソード (5)	○エピソード（※）を聞く (全体)	○ファシリテーターが二人を指名し、エピソードを読んでもらう。 ○各自の体験を想起させる。	エピソード
話し合い (5)	ワーク1 ○自分の子育てを振り返り、それぞれエピソードと同様な経験を話し合う。(グループ)	○自分の子育て体験を振り返り、対応に悩んだ事例を発表し合うことにより、テーマを主体的に捉えられるようにする。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク2 ○約束していたのに、買ってほしいと言ってきた翔太さんに対して、あなたならどのように話しますか。 (グループ)	○単に「買わない。」だけではなく、子どもの気持ちも理解してやる。 ○「だめなものはだめ」という毅然とした態度も大切であることを知らせる。 ○その場しのぎの対処法を考えるのではなく、見通しを持った対応を考える。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク3 ○子どもの要求を受け入れて、買い与えてしまった場合と子どもに理解させて我慢させた場合の違いについて考える。 (グループ)	○子どもの要求を受け入れてしまった場合、今後の学校生活や交友関係で悪影響を及ぼすことが多いことを知らせる。 ○がまんする心を育てることが、生活や学習面に生かされてくることを捉えられるようにする。	ワークシート
話し合い (5)	ワーク4 ○グループ毎に、話し合った内容を発表する。(全体)	○ワーク2、3で話し合われた内容を代表者に発表させる。	
まとめ (5)	振り返り ○学習をふりかえり、これからの子どもへの接し方を各自考える。	○家庭教育ブック P 12を参照して、がまんの心について確認をする。 ○今日のワークに参加しての感想をワークシートに記入する。	家庭教育ブック

ワークシート 子どもの心を育てる 2

1 自分の子育てを振り返って、同じような体験がありますか？



2 あなたなら翔太さんにどのように話しますか。



3 子どもの要求通りに買い与えてしまった場合と理解させてがまんさせた場合、その後どんな違いがあると思いますか。

【買い与えた場合】

.....

.....

【がまんさせた場合】

.....

.....

3 プログラムをとおして、子どもへの接し方について、どんなことに気づきましたか。

※ 活用したエピソード

洋子さんの長男翔太さんは、小学校3年生。毎日楽しく学校に通い、明るく元気な子です。

今日は、数人の友だちと遊ぶ約束をして学校から帰ってきました。

おやつを食べ終わると、最近、父に教えてもらった野球をしに近くの公園に出かけました。

洋子さんは、夕食の準備をしていると、しょんぼりとした翔太さんが帰ってきました。



翔太：「あーあ、つまんなかった。」

洋子：「どうしたの。翔太の大好きな野球をやってきたんでしょ。」

翔太：「最初は楽しかったけど・・・途中からみんなゲームを始めたんだ。」

洋子：「野球をやるのにみんな集まったんでしょ。」

翔太：「ゲームの野球の方がおもしろいんだって。みんな持っているんだから、ぼくにも買ってよ。」

洋子：「次の誕生日に買ってあげるって言ってるでしょ！」

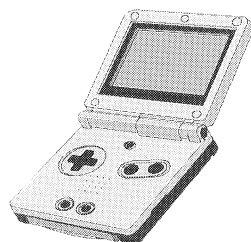
翔太：「みんな持っているんだよ！」

以前から、携帯用ゲーム機の話は出ており、家族で相談して半年後の誕生日に買ってあげる約束をしていた。翔太も納得はしていた。

翔太：「みんな持っているのにぼくだけないんだよ・・・」

洋子：「約束は守りなさい！！」

翔太：「すぐに欲しいんだよ！！！」



事例3 「がまんの心」を育てる（家庭教育ブックP12）の実践例

日 時	平成21年10月6日(火) 13:40~15:00		
会 場	石岡市立杉並小学校 体育館		
テ ー マ	子どもの心を育てる2「がまんの心」を育てる(家庭教育ブックP12)		
学習形態	一斉・小グループ(情報交換)		
参 加 者	平成22年度新入学生保護者(71名)		
講 師	○ 茨城県家庭教育推進員(石岡市)		
時 間	学習内容・活動	形態	講師(ファシリテーター)としての心得
13:50	講師自己紹介	一斉	・共に子育てについて考えていく機会であることを意識づける。 ・各グループの進行役を決める。 ・ファシリテーターが二人を指名し、エピソードを読んでもらう。 ・グループを回りながら、進行役に助言する。 ・見通しを持った対応を考えるよう助言する。 ・各グループの代表者に話し合った内容の発表を依頼する。 ・グループを回りながら発表者に言葉かけし、発表しやすい雰囲気を作る。 ・ねらいにせまるまとめをするのではなく、話し合いの余韻を残して終わる。
14:00	ワークの趣旨説明 1 グループ分け(誕生月で12グループ) ・自己紹介	グループ	
	2 エピソードを聞く(全体)	一斉	
	3 ワーク1	グループ	
	4 ワーク2	グループ	
14:25	5 ワーク3	グループ	
	6 ワーク4	一斉	
14:40	振り返り ◎学習を振り返り、これからの子どもへの接し方を各自考える。	一斉	

<活動の様子>



(講師あいさつ・趣旨説明)
「今日は皆さんが主役です！」ファシリテーターの説明に、参加者は戸惑っていました。



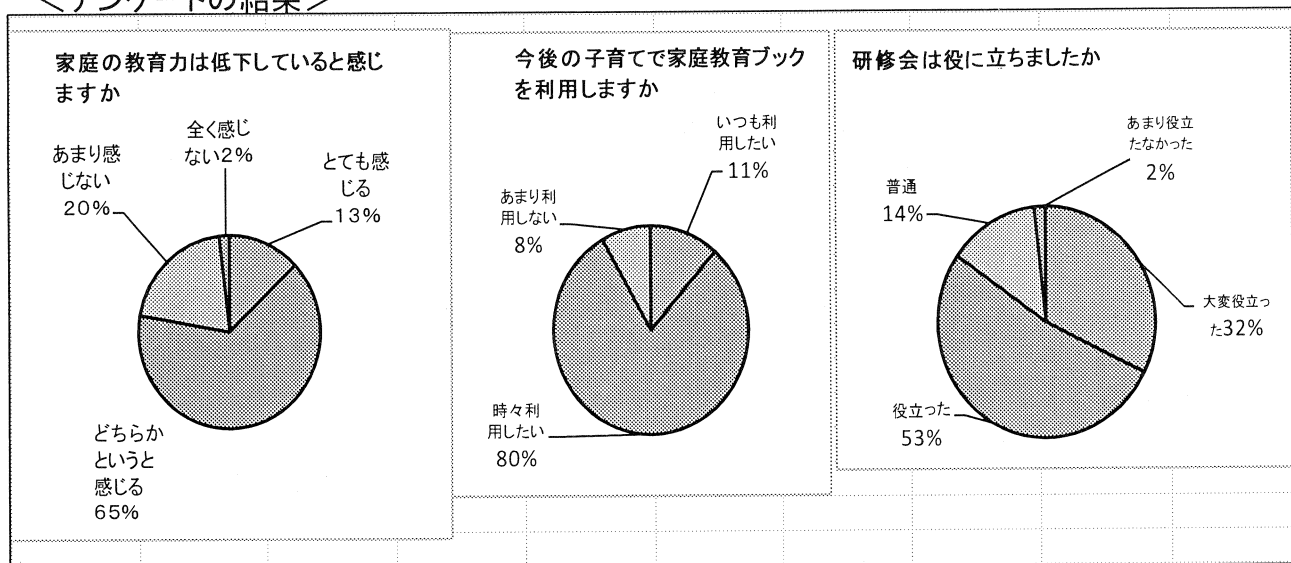
(エピソード)
母親、子ども、ナレーションに分かれてエピソードを読んでもらいました。



（グループ協議）
グループの雰囲気も和み、活発な話し合いが行われました。

（代表者の発表）
各グループで話し合った内容を代表の方が発表しました。

＜アンケートの結果＞



- 今回のプログラムを通して、子どもの接し方について、どんなことに気づきましたか。
- ・ 今回のような子育て講座は、とても楽しかったです。これから6年間共にする方とお話しでき、安心しました。皆さんと同じ考えだったので、自分の子育てが再確認できました。
 - ・ 自分の体験や意見を述べたり、他の方の意見を聞いたりしながら、子育てについて考える機会となり、今までの講演会スタイルよりよかったです。
 - ・ 自分と同じような体験を他の人から聞くことができ、参考になることがたくさんあった。その人、その時によっていろいろな考え方があり、講演を聴くよりも身近な話題でよかった。
 - ・ 子どもにがまんさせるだけでなく、親も一緒になって考えたり、相談したりしながら接していくことが大切であると思いました。
 - ・ 子育てに皆さん苦労していることがわかりました。兄弟がすでに在学している方の意見はとても参考になりました。こういうスタイルは大賛成です。
 - ・ 親からの目線だけで接するのではなく、子どもの気持ちなども考えて、その時々接してあげることが大切であると思いました。
 - ・ 「がまんの心」は大事だと思いますが、なぜがまんをさせるのかを親として考え、子ども目線で関わり合っていきたいと思います。
 - ・ 「がまんをさせる」、「買い与える」の単純な選択でなく、話し合い方・コミュニケーションの取り方等をやって欲しかったです。

＜講座を運営して＞

石岡市生涯学習課で実施している「子育て学習講座」で「家庭教育ブックを活用した親の学び講座」を行った。今回は、来年度入学する児童の就学時健康診断の際に実施したため、全保護者が参加した。

今日、家庭や親の教育力の低下が問題視されている。「あなたは、最近、家庭の教育力が低下していると感じますか。」という質問に対して、「とても感じる」、「どちらかというと感じる」が78%であり、親自身も家庭での教育に不安を持っている。核家族化が進み、子育てについて相談できる人が身近におらず、多くの人たちの意見やアドバイスを受ける機会が少なく、子育てに不安な気持ちを持っている親も多いと思われる。

今回のアンケート結果では、「子育て」について真剣に考えている保護者、これから真剣に考えなければいけないと思っている保護者が多くいた。また、同じ世代の子を持つ親同士の話し合いの場を求めていると感じた。

保護者に多様な学習機会の提供を積極的に行うことで、子育てや家庭教育に関する興味・関心が高まり、子どもと真剣に向き合う姿勢が生まれてくるものと思われる。そのような機会となる「家庭教育ブックを活用した親の学び講座」の実施は有効と思われる。

「たくましい心」を育てる

ふだんの子育てをふり返って「はい」ならチェック(し)をいれてみてください。

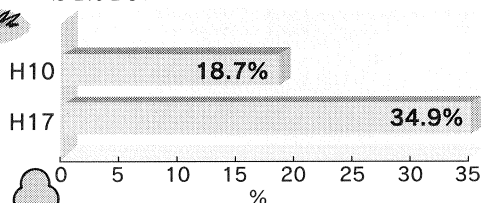
子育て、どうしていますか

- ☐ 子どもが泥だらけになるのは困ったことだと思いますか。
- ☐ 図鑑やテレビだけで、自然の様子を伝えればいいと思いますか。

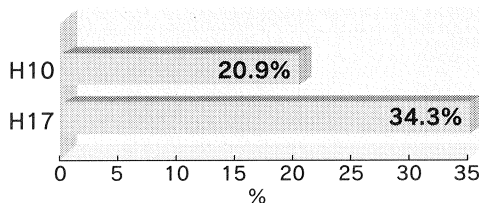
子どもたちの自然体験が減っています。

子どもが自然体験をした割合(小学校4年生)

チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたことがほとんどない



海や川で貝をとったり、魚を釣ったりしたことがほとんどない



独立行政法人国立青少年教育振興機構国立オリンピック記念青少年総合センター
『『青少年の自然体験活動等に関する実態調査』平成10・17年度調査報告書』より

※ 幼いうちから、自然観察や野外活動などの体験活動をしたり、博物館や水族館などでいろいろなものに触れたりすることにより、他との共存の大切さや知的好奇心が高まります。

※ 自然体験の多い子どもには、道徳観・正義感があり、学習意欲・課題解決意欲の高い子の多いことが国の調査で明らかになっています。

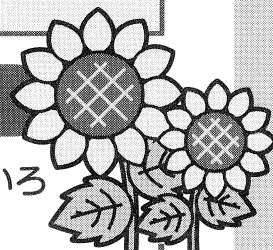
子どもいきいき 自然体験フィールド100選

子どもたちが、楽しく自然体験活動できる場所を県内100か所選びました。
100か所を示したマップを活用して、親子一緒に自然の中で遊び、学び、発見し、新しい体験をしてみましょう。

インターネットでも情報を提供しています。(http://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/taiken/100sen.htm)

「たくましい心」を育てるポイント

- (1) 各県立青少年教育施設や生涯学習センターなどを利用して、いろいろな体験活動をさせましょう。
- (2) 夏休みなどを利用して、子ども会などで行う、キャンプ(宿泊体験)へ参加し、自然体験や集団生活体験をさせましょう。



タイトル	子どもの心を育てる7「たくましい心」を育てる 家庭教育ブック(P17)
ねらい	子どもたちは体験をとおして、驚きや感動、自然を大切にする心や忍耐など多くのことを学ぶ。そこで、親自身が日常生活の中で子どもと体験活動と一緒に、「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことの大切さに改めて気づき、子どもたちに「たくましい心」を育てる。
事前準備	・実験器具 ・ワークシート ・家庭教育ブック

時間(分)	展 開 例	学習支援者の留意点	備 考
導入(10)	○実体験をさせる。(指導例) ・静電気実験 ・ジャンボシャボン玉 ・炭酸ロケット ・泥あそび 上記の実験が困難な場合	○場を和らげ、打ち解けた雰囲気演出する。 ○質問例・子どもは泥だらけになって遊んでいる。	実験器具
	ワーク1 ○アイスブレイキング ・「自然体験」や「生活体験」などの質問をして自分の思う答えの所に移動してもらう。 ・自分の答えについて理由などを話してもらう。 グループ分け	○子どもは自然体験を十分にしている。 ○1グループ5人程度の話しやすい人数に分ける。	ワークシート
書き込み (5) 話し合い (10)	ワーク2 ○「吹き出し」に言葉を書き込む。 ○書いたことをグループで話し合う。	○なぜそう書いたのか、説明しながら話し合う。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク3 ○体験することでどのように変わっていくと考えられることを書き込む。 ○書いたことをグループで話し合う。	○体験を通して子どもたちが変わることなどについて、個々で考える時間をとった後、自由にグループで話し合ってもらおう。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク4 ○体験を通して子どもが得られるものについて3つまで記入する。 ○書いたものについてグループで話し合う。	○付箋にかいて分類しながら話し合う。 ○分類した意見に見出しやタイトルをつけ話し合う。	ワークシート
まとめ (5)	ワーク5ふりかえり 学習をふりかえり、これからの子どもと一緒にできる「体験」や、させたい体験を考える。(全体)	○参加者の心の変容をつかんでおく。 ○家庭教育ブックP17を参照して、体験をとおして「たくましい心」を育てることの大切さについて確認する	ワークシート 家庭教育ブック

子どもの心を育てる7 「たくましい心を育てる」

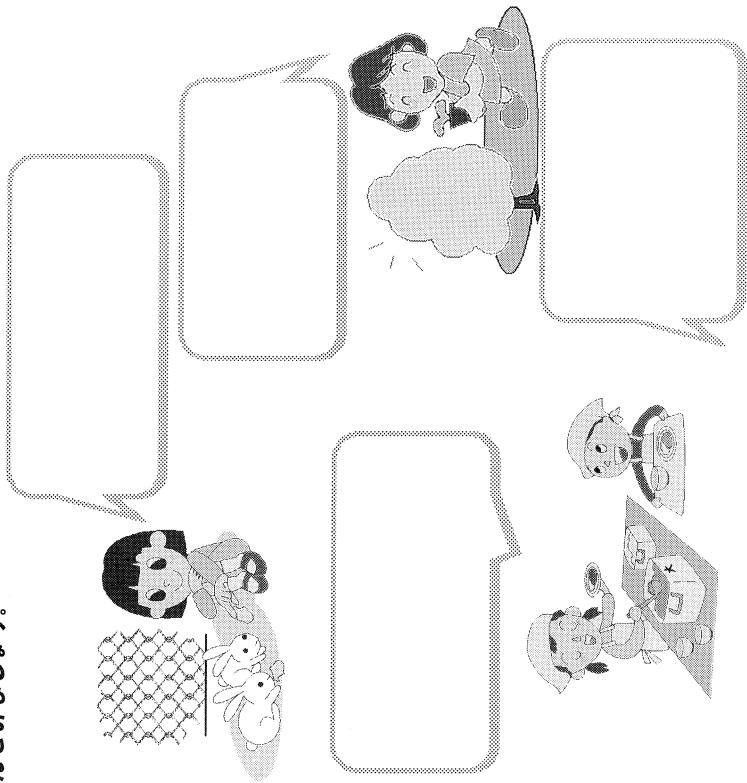
- あなたは、お子さんをどのような子に育てたいと思いますか？
あなたにとって、「たくましい心を育てる」とは……！

1 子ども自然体験や生活体験について(ワーク1)

- Q1 我が子は泥だらけになって遊んでいる。
(いつも ときどき たまに ない)
Q2 我が子は自然体験を十分にしている。
(いつも ときどき たまに ない)
Q3 我が子に包丁等をもたせてる
(いつも ときどき たまに ない)
Q4 我が子はお手伝いをしている。
(いつも ときどき たまに ない)

2 エピソード

(ワーク2) 子どもたちが活動しているイラストを見て吹き出しに言葉を書き込んでみましょう。



- 3 子どもたちはイラストのような体験を通して、どのように変わっていくと思いますか。

- 4 体験を通して子どもが得られるものについて3つまで書いてみましょう。

○

○

○

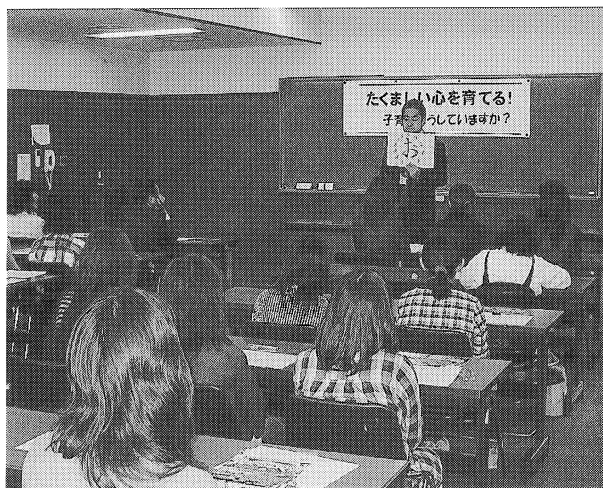
- 5 学習をふりかえり、これから「子どもと一緒にできる体験」や「させたい体験」を考えてみましょう。

※ 本日の講座とおしでの感想を書いてみましょう。

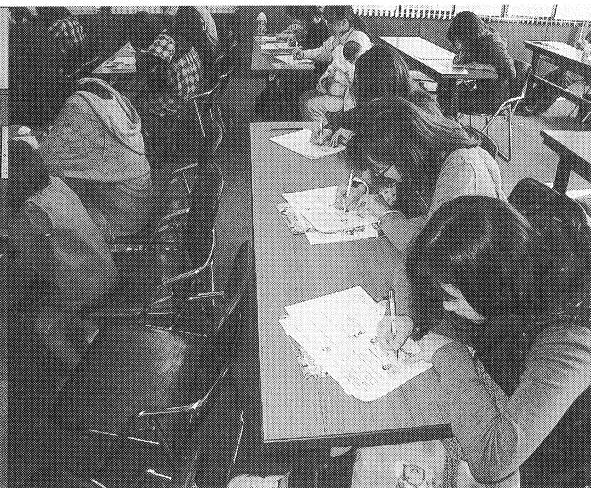
事例4 「たくましい心」を育てる（家庭教育ブックP17）の実践例

日 時	平成21年10月28日（水）10:30～11:30		
会 場	大洗町文化センター会議室		
テ ー マ	子どもの心を育てる7「たくましい心」を育てる（家庭教育ブックP17）		
学習形態	一斉・小グループ（情報交換）・個人		
参 加 者	大洗町立祝町幼稚園保護者（38名）		
講 師	○ 茨城県水戸生涯学習センター 社会教育主事		
時 間	学習内容・活動	形態	講師（ファシリテーター）としての心得
10:30	- 講師自己紹介 1 アイスブレイキング - 絵文字当てクイズ 「YES」「NO」クイズ 2 ワークシート2『吹き出し』について話し合う。 - グループ編成をする。 - 講師の指示の元に、グループごとに自己紹介をする。 ○ 私は、（名字）です。 ○ 私は、（名前）ちゃんです。 ○ 私の子どもは、〇〇で、こんな子です等をそれぞれ言ってもらう。 『吹き出し』に入る内容を考える。 - グループで話し合う。 3 ワークシート3、4について考える。 - ワークシート3について考え、話し合う。 - ワークシート4について考え、話し合う。 4 ワークシート5を活用し、振り返りをする。	一斉 グループ グループ 個人	 - 仲の良い人ばかりにならないように、無作為にグループ編成をする。 5人グループになり番号をつけてもらい講師の指示の元に話しをしてもらう。 - 書ける範囲でよいことを助言する。 - 体験を通してえられる内容についてじっくり話し合える時間を設ける - じっくり考えさせる
11:20	5 講師のまとめをする。	一斉	「逆説的家庭教育の心得」を読み、まとめとした。

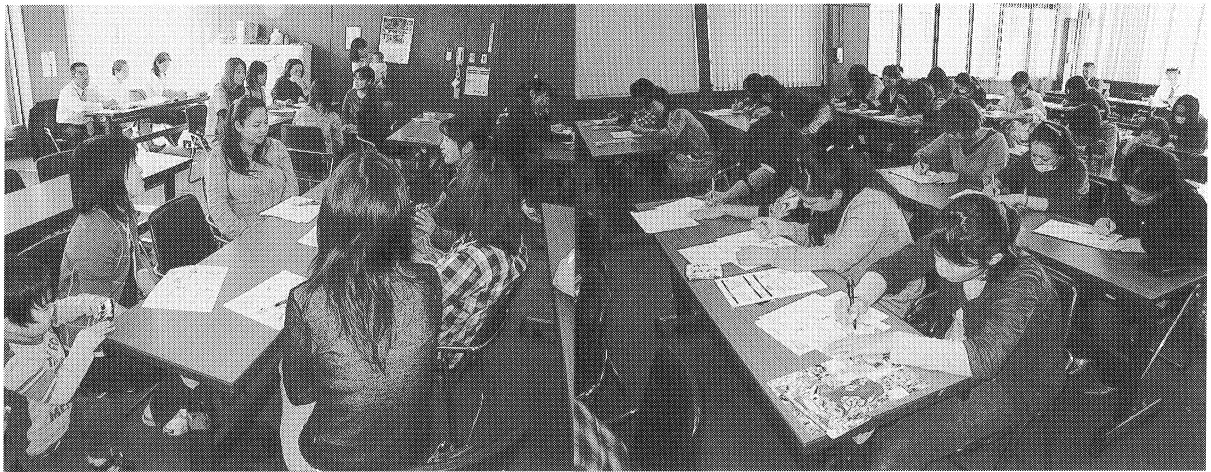
＜活動の様子＞



～アイスブレイキング～



～『吹き出し』への記入～

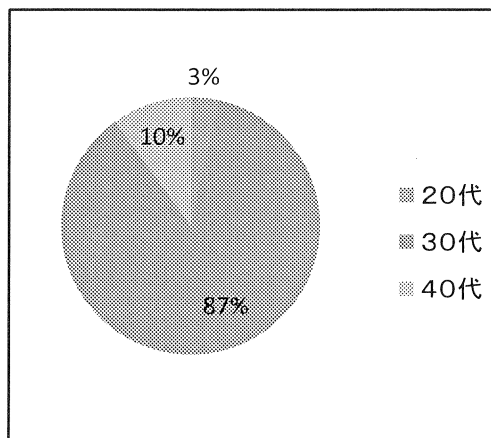


～話し合い活動～

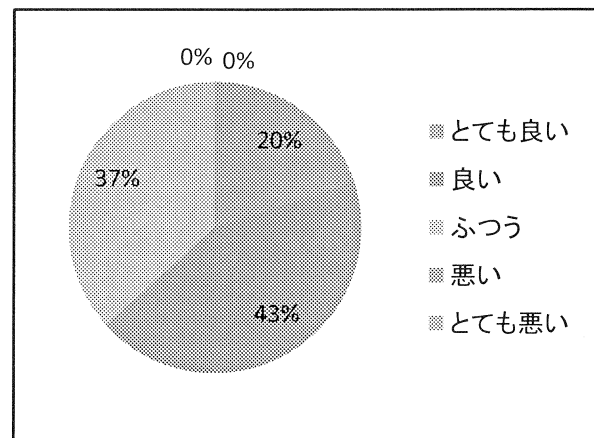
～振り返りの時間～

<アンケートの結果>

質問1 年齢構成



質問2 ワークシートの使い良さ



質問3 ワークシートについての意見

- もっといろいろなワークシートを見たいです。
- ワークシート3, 4が同じになってしまう。
- ワークシートのイラスト等の絵から、たくさんのお話ができた。

質問4 講座を受けて

- 普段考えないようなことを話し合えて本当に良かったです。
- いろいろ考えることができました。
- 改めて考える機会になりました。
- 子どもの気持ちを考える機会ができて良かったです。子どもへ自分がやってあげたいことが何となく分かった。

<講座を運営して>

当初新入生保護者説明会の時に講座を実施する予定でいたが、幼稚園の家庭教育学級での講座に変更となった。参加者はある程度顔見知りの方々ではあったが、アイスブレイキングを実施したことで、より活発な話し合いができた。

ワークシートを活用しながらの展開であったので、参加者が自分の意見をしっかりと持ち、話し合いに参加できていたのは大変よかった。

ファシリテーターの役割は、その時の雰囲気や参加者の心情をしっかりととらえ、周りを意識せず自由に話せる環境づくりや場の工夫が大切であると痛感した。

家庭教育学級講座では、やはり講義形式での展開の他に、自由に話し合える井戸端会議（グループ討議）の形式を取り入れると参加した保護者は満足感や充実感を得られると思われる。

「子どもがつまずいた時の子育て」

※ 子どもがつまずいた時、親は原因探しや悪者選びをしがちです。原因探しや悪者選びは問題解決につながりません。

※ 子どもに問題が起きた時、親は、子どもを責めてしまうことがあります。子どもがつまずいている時、一番つらい気持ちでいるのは子ども自身です。



ちょこっとアドバイス

抱きしめてあげましょう

子どもがちょっとつまずいている時は、そっと抱きしめてあげましょう。何も話さなくても、抱きしめてあげるだけで子どもに力を与えるものです。

「子どもがつまずいた時の子育て」ポイント

- (1) 子どものつまずきは、子ども自身がそれを乗り越え、心を強くするとともに親自身も成長できるよい機会と考えてください。
- (2) 子どもがつまずいた時は、親の出番であり、立ち直りには親の力が必要です。両親が心ひとつにして問題解決に取り組んでください。必ず、光が見えてきます。

子どもがつまずいたときの対応

子どもの話をよく聞きましょう。どうすると良いか、家族で話し合しましょう。

(心配)

担任の先生に相談しましょう。

(心配)

相談機関に電話をし、相談したいことを説明した上で、相談の予約をしましょう。

解決

解決

相 談

できるだけ両親そろって行きましょう。子どもも一緒の場合は、「どうするとよいか、話を聞きに行こう」などと話した上で、連れて行きましょう。

タイトル	子育ての心得5 「子どもがつまずいた時の子育て」 家庭教育ブック（P24）
ねらい	子どもは成長する中でつまずき，それを乗り越えて心を強くしていく。 それを，親自身も成長する機会と考え問題解決に取り組む機会とする。
事前準備	・ワークシート ・名札 ・家庭教育ブック

時間 (分)	展開例	学習支援者の留意点	備考
導入(5)	○グループ分け ワーク1 ○自己紹介 ・名前 ・例) 子どもと過ごして楽しかったことは何ですか？	○場を和らげ，打ち解けた雰囲気を演出する。 ○5人程度の話しやすい人数に分ける。 ○話題の共有化を図る。	ワークシート 名札
書き込み (5) 話し合い (10)	ワーク2 ○子どもが「つまずき」そんな事柄を3つあげて，その時どうしたらよいかを書き込む。 ○「つまずき」として書いたことをグループで話し合う。	○自分の子どもがつまずいたことは書き込みづらいので，つまずきそんなこととして書き込み，話し合いを進める。	ワークシート
話し合い (10)	○つまずきに対してどのように対処をするか。	○自由にグループで話し合ってもらおう。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク3 ○子どもがつまずいたときにしてはいけないことを3つあげて，その理由をグループで話し合う。	○普段はしてしまっているようなことを話題にあげ気付かせるようにする。	ワークシート
話し合い (10)	ワーク4 ○子どもがつまずいた時の対応を考え図にまとめる。 ○図に書いたものについてグループで話し合う。	○図にまとめることで整理しやすくする。 ○グループ内で対応の仕方を分類しどうするのが1番子どもによいのかを話し合う。	ワークシート
まとめ (5)	ワーク5ふりかえり ○学習をふりかえり，これからの子どもがつまずいたときに1番大切にしたいことをまとめる。	○参加者の心の変容をつかんでおく。 ○家庭教育ブック P24を参照して，つまずいたときの留意点を確認する。	ワークシート 家庭教育ブック

ワークシート

子育ての心得 5 子どもがつまずいたときの子育て

1 自己紹介をしてみましょう。

○最近、子どもと過ごしていて楽しかったことは何ですか？

2 子どもがつまずきそうなことを3つあげてみましょう。

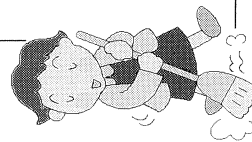
子どもがつまずきそうなこと	あなたならどうしますか。
○	
○	
○	

3 子どもたちがつまずいたときに、してはいけないことはなんですか。

4 子どもたちがつまずいたときに考えられる対応を考えてみましょう。

親子（家族）でできること	相談するとしたら 1	相談するとしたら 2

5 学習をふりかえり、これからの子どもがつまずいた時に大切にしたいことはなんですか。



事例5 「子どもがつまずいたときの子育て」（家庭教育ブックP24）の実践例

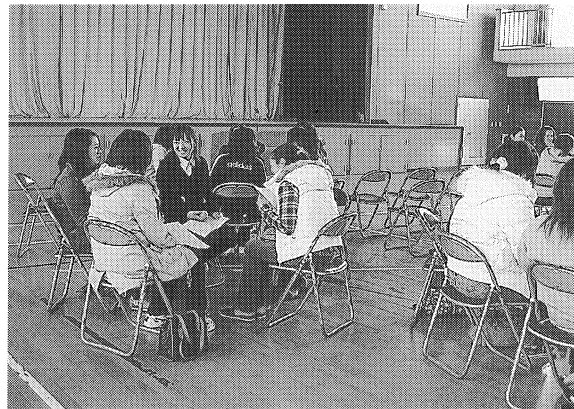
日 時	平成21年11月12日（木）13:30～14:00		
会 場	神栖市立明神小学校		
テ ー マ	子育ての心得5「子どもがつまずいたときの子育て」（家庭教育ブックP24）		
学習形態	一斉・小グループ（情報交換）		
参 加 者	神栖市立明神小学校3年生保護者（37名）		
講 師	○ 茨城県水戸生涯学習センター 社会教育主事		
時 間	学習内容・活動	形態	講師（ファシリテーター）としての心得
13:30	※6人程度のグループに分かれるよう会場設営をしておく。 1 ワークシート1について話し合う。 ・ 講師が演示をしながら自己紹介をする。 ・ グループ毎に自己紹介をする。 ○ 私は、（名字）です。 ○ 私は、（名前）ちゃんです。 ○ この間、子どもの○○と～をして楽しかったです。 等をそれぞれ言ってもらおう。 2 ワークシート2, 3, 4について考える。 ・ 子どもがつまずきそうなことや、その際してはいけないことについて考え、話し合う。 3 子どもがつまずいたときの対応について考え、話し合う。 ・ 家族でできることは？ ・ 相談するとしたら？ 4 ワークシート5を活用し、振り返りをする。 ・ つまずいた時に大切にしたいことについて話し合う。	一斉グループ グループ グループ グループ	・ 仲の良い人ばかりにならないように、無作為にグループ編成をする。 ・ 時間が限られているので、ワークシートへの書き込みはせず、進め方の参考として活用する。 ・ 自由に話し合ってもらおう。 ・ 考える手だてとして家庭教育ブックが参考となることを知らせる。 ・ 話し合った中から一番大切にしたいことは何かを考え、振り返りとする。
13:58	5 講師のまとめをする。	一斉	・ 「矯正施設の生徒の絵手紙」を紹介し、まとめとした。

<活動の様子>



～講師あいさつ・趣旨説明～

- ・これから何が始まるのか、とまどいながらも真剣に耳を傾けてくださいました。



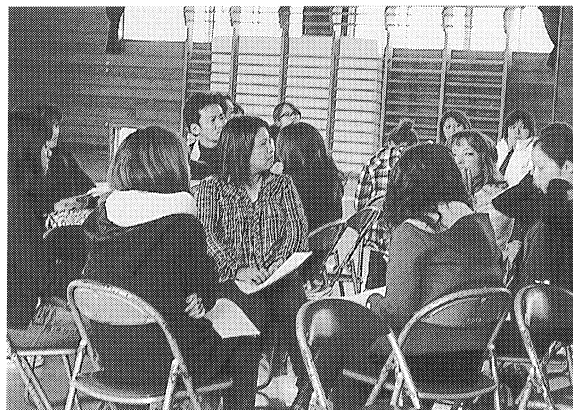
～自己紹介～

- ・アイスブレイクを兼ねた自己紹介が進むにつれ、体育館いっぱいに笑顔の輪が広がりました。



～話し合い活動～

- ・和やかで自由な雰囲気の中で活発な話し合いがなされました。



～振り返りの時間～

- ・今日の話し合いについて、熱心に振り返り合いました。

<講座を運営して>

普段の生活の中で、「家庭教育」や「子どもへの接し方」について、改めて自分を振り返る機会は少なく、また同様に保護者同士でお互いに、家庭教育について意見交換をする機会もほとんどないようである。

そこで今回、子どもがつまずきそうな時はどんなときか。その際に「してはいけないこと」や「対応のしかた」「子どもへの接し方」について、お互いに自由に意見交換や情報交換をすることにより、自分の子育てを振り返るよい機会となった。

子どもがまだ3年生という時期であるので、はじめは「つまずいた時」をイメージすることが難しかったようである。しかし、グループで話し合う中で次第に具体的に考えることができた。一斉型ではなく、参加型のグループ・ワークの成果といえる。

今回は、限られた時間であったため、ワークシートを書き込み用ではなく、話し合うための参考資料として活用した。そこで検証後、内容の重点化を図り、短時間の講座でも使いやすいマニュアルを作成することとした。

「思いやりの心」を育てる

ふだんの子育てをふり返って「はい」ならチェック(し)をいれてみてください。

子育て、どうしていますか

- ☐ 自分さえよければ他人はどうでも…と、思いますか。
- ☐ 子どもが、お年寄りや体の不自由な方に、席をゆずったりする必要はないと思いますか。



※ 思いやりは、対人関係を良好に保つための基本の心です。人と人々が支え合って生きる社会をつくるためにも欠かせないもので、人が生きるために大事にしなければならぬ心です。

※ いじめや差別は、思いやりのないところに起きます。思いやりの心を持つ子は、相手がいやがるいじめや差別をしません。

「思いやりの心」を育てるポイント

- (1) 思いやりの心は、親から思いやりのある育て方をされて育ちます。子どもの心を大事にする子育てをしてください。
- (2) 親自身が自分の親やお年寄りの方を大切にする姿を子どもに見せてください。

タイトル	子どもの心を育てる4 「思いやりの心」を育てる
ねらい	日常生活における子どもとのかかわりを振り返る中で、どのような言葉かけや態度が思いやりの心を育てるかを考える機会とする。
事前準備	ワークシート 挿絵 ホワイトボード 筆記用具

時 間	展 開 例	学習支援者の留意点	備 考
ワーク1(10分)	○ワークの趣旨説明 ワーク1（アイスブレイク） ・ じゃんけんチャンピオン ・ 数集まりなど ・ 二人組になる ・ 自己紹介	○場を和らげ、打ち解けた雰囲気づくりに心がける。 ○学習支援者と参加者、及び参加者同士のコミュニケーションを図りながらアイスブレイクを行う。 ○二人組を作って、互いに自己紹介を行う。 ○(1)，(2)は時間によって1つを省略する。	
ワーク2(10分) ロールプレイ (1分×4) 意見交換(6分)	ワーク2 ○聞き手の態度の体験（ロールプレイ） ○感想を互いに話し合う。	○実際に快い態度と不快な態度をしてみる、されてみる体験をする。 ○自己紹介を交代で行う。 ①A-話し手（自己紹介） B-聞き手（不快な態度） ②A-話し手（自己紹介） B-聞き手（快い態度） ③，④はAとBを交代	ワークシート
ワーク3(10分) ロールプレイ (1分×4) 意見交換(6分)	ワーク3 ○言葉かけの体験（ロールプレイ） ○感想を互いに話し合う。	○実際に快い言葉かけと不快な言葉かけをしてみる、されてみる体験をする。 ○(例) 元気のない表情で子どもが家に帰ってきた時の母親の言葉かけ ①A-母親役（快い言葉かけ） B-子ども役 ②A-母親役（不快な言葉かけ） B-子ども役 ③，④はAが子ども役，Bが母親役	ワークシート 挿絵 ホワイトボード
ワーク4(10分) 記入(5分) 意見交換(5分)	ワーク4 ○今日の体験から学んだことを記入 ・ 言葉かけ ・ 態度 ○グループ内で意見交換	○ロールプレイをして感じたことを「言葉かけ」と「態度」に分けてワークシートに記入する。 ○親の言動そのものを見て、子どもが成長していることに気付かせたい。	ワークシート
まとめ(10分) 記入(5分) 発表(5分)	まとめ（グループ・全体） ○プログラムの感想を記入する。 ○今日のワークの感想をグループ、全体で確認する。	○全体の場で意見を共有する。 ○参加した感想を自由に話し合うことにより、子どもとのかかわりについて再確認してもらう機会とする。 ○時間がない場合は、確認は全体とする。 ○家庭教育ハンドブックを参照して、「思いやりの心」を育てるポイントを確認する。	ワークシート 家庭教育ハンドブック

ワークシート

子どもの心を育てる 4

1 体験から感じたこと（ワーク 4）

態度から

言葉かけから

2 プログラムをとおしての感想

Ⅳ 家庭教育ブック活用状況について（前年度アンケート結果）

H21.3.31現在

（アンケート回答数：保護者 2,409人）

平成20年度「家庭教育ブックを活用した研修会」について

○実施箇所数 551箇所（主に小学校）

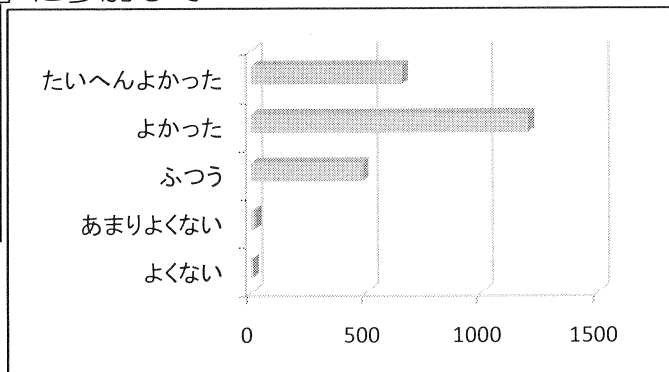
・就学時健診時 344箇所

・入学説明会時 207箇所

にて実施し、アンケート結果は以下ようになった。

○「家庭教育ブックを活用した研修会」に参加して

・たいへんよかった	27.7 %
・よかった	50.7 %
・ふつう	20.4 %
・あまりよくない	0.7 %
・よくない	0.2 %



約79%の人が参加してよかったと回答

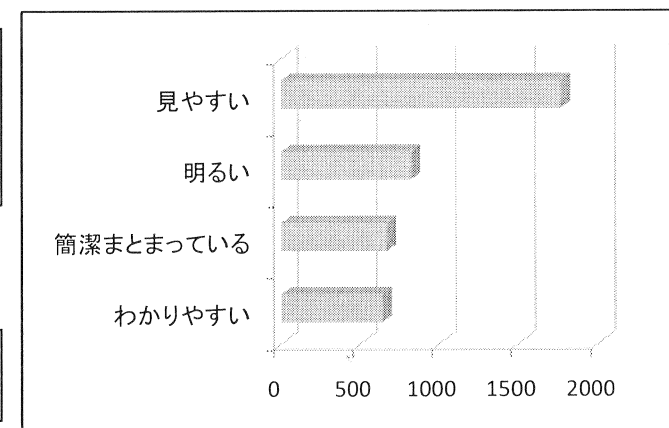
○家庭教育ブックの感想（複数回答）

・見やすい	1765人
・明るい	827人
・簡潔にまとまっている	673人
・分かりやすい	643人

見やすいという回答が多く、好評である

少数意見として

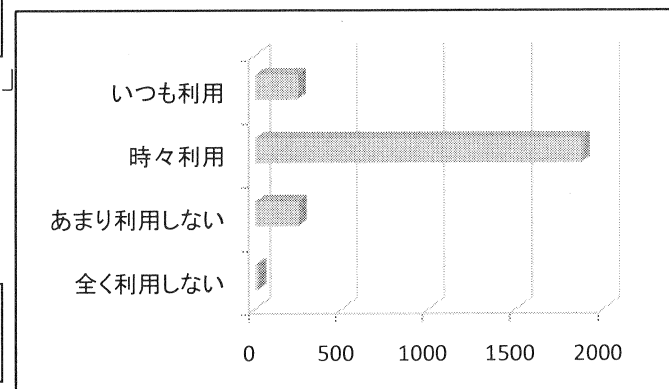
・まとまっていない 8人	・見にくい 6人
・分かりづらい 4人	・暗い 1人



○家庭教育ブックのサイズについて

・大きすぎる	21.8 %
・ちょうどよい	78.2 %

「常にバックに入れておけるサイズがいい」という少数意見もあった。



○今後、家庭教育ブックを利用するか

・いつも利用したい	10.2 %
・時々利用したい	78.5 %

約89%の人が利用したいと回答

「悩んだ時や、ちょっと情報が知りたい時などに利用したい」という意見が聞かれた。

「いつも利用するようではまた問題だと思われる」という意見もあった。

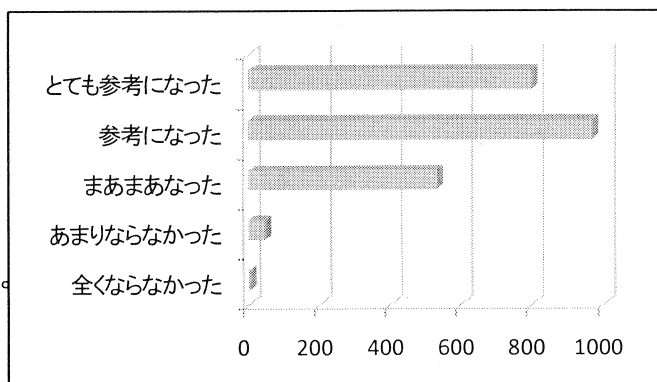
・あまり利用しない	10.5 %
・全く利用しない	0.8 %

「当たり前のことしか書いていない」、「今まで同じような物をもらってきている」という回答もあった。

○ 家庭教育ブックは参考になった

・とても参考になった	34.0 %
・参考になった	41.2 %
・まあまあだった	22.6 %

約98%の人が参考になったと感じている。
研修資料としては、適切と思われる。



○ 主な感想

- ・ とても分かり易く参考になった。思い当たる点が結構あり、今後の育児の参考になった。
- ・ これまでの子どもとの関わり合いについていろいろと再確認できた。
- ・ 子どもの気持ちや育て方など、普段少し悩んでいることが沢山書いてあり、とても分かり易くて安心できた。
- ・ 親のモラルについてまで書かなければいけないのは悲しいことだと思うが、現実には仕方ないのかなと思った。
- ・ 親はみんな自分の子育てに不安を感じている。このような本が存在して充実することはありがたい。

(否定的な意見)

- ・ 内容がわかりきったことである。上の子も似たような内容でいろいろもらってきてたまっている。
- ・ 別のことにこの予算を使って下さい。耐震化とか。
- ・ 全体的に当たり前すぎる内容。今の保護者はこのような説明を受けなければ分からない人が多いのでしょうか？
- ・ 一度見たら見なくなりそう。用紙など高級でこれに税金を費やすよりも子どもへ具体的なサポートをしてほしい。

V 成果と課題

1 成果

(1) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」の作成について

① 「親の学びプログラム」全般について

- 平成20年度に開発した「モデルとなる家庭教育学級講座」のプログラムの中で非常に評価の高かった井戸端会議（グループワーク）を主体とした参加型プログラムの開発を行った。講師がファシリテーター（学習支援者）となって、「教える」から「気付かせる（引き出す）」に、参加者が「教わる」から「自ら学ぶ」に意識と行動を変容させる構成としたのがよかった。

② 「親の学びプログラム」手引書について

- ファシリテーターとしての心構えや講座展開の工夫（アイスブレイキング・ロールプレイ）などの手引書を作成し、HP等に掲載できた。そのことにより、誰でも確認できるようにした。

③ 「親の学びプログラム」（マニュアル・ワークシート）について

- 「家庭教育ブック」の活用を図るためのツールとして、「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」を6パターン開発した。マニュアル・ワークシートには、参加者同士が互いに体験や思い、考えを引き出しあう仕組みが盛り込まれている。
- 「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」を使用することで、誰でも負担なくファシリテーターを務めることができる。

(2) 家庭教育ブックを活用した「親の学び講座」を実施して

- 「親の学びプログラム（マニュアル・ワークシート）」を用いた講座を実施し、マニュアル・ワークシートの改善を図ることにより、実践的なプログラムが開発された。
- 就学時健康診断・新入生保護者説明会等での活用は、全保護者が参加できるため有効であると考ええる。
- 保護者に多様な学習機会や場の提供を積極的に行うことで、子育てや家庭教育に関しての興味・関心が高まった。
- 「親の学びプログラム」を活用することで、従来の講演会スタイルではなく、参加型の講座を容易に実践できる。
- 参加者自身が自分の体験や意見を述べ合ったり、他の人の意見を聞いたりする中で、改めて家庭教育や子育てについて考える機会を得ることができたと好評であった。

2 課題

(1) 家庭教育ブックを活用した「親の学びプログラム」について

- 今回作成した内容の他の項目についても、マニュアル・ワークシートを作成する必要がある。

(2) 家庭教育ブックを活用した「親の学び講座」について

- 学校や公民館等の公共施設内に、家庭教育学級やPTA活動等において、継続的に学習できる環境を整える必要がある。
 - ・ 家庭教育ブックやマニュアル・ワークシートが揃っている。
- 話し合いが円滑に進行するかどうかは、ある程度ファシリテーターの力量によるところが大きいので、ファシリテーターの人材育成も計画的に進める必要がある。

VI まとめ

茨城県教育委員会では、平成20年度に「家庭教育ブック」を作成して、今年度小学校に入学する児童をもつ県内の全家庭に配付いたしました。「家庭教育ブック」活用の研修会に参加された約27,000人の保護者から寄せられたアンケートでは、研修会に参加してよかったとか、「家庭教育ブック」を歓迎することを感じさせられるご意見が多数を占め、今後の活用による成果が期待されるところですが、文部科学省が発表した「平成20年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査において、茨城県内での暴力行為の発生件数は、前年度より204件増の1,725件で、13.4%も上昇しており、平成18年度以降最多となっております。一因として家庭の教育力・地域の教育力の低下も考えられますので、さらに学習機会の提供について調査研究を行い、新たな学習プログラムの開発を実証的に進めるべく「学習プログラム開発事業」がスタートしました。

教育庁生涯学習課職員、市町村関係職員、各生涯学習センター職員等によって「学習プログラム開発委員会」が組織され、すでに同様の事業が先行している埼玉県、栃木県、三重県での関係資料を参考に、本県独自の「家庭教育ブック」の内容から、「待っていていただけますか?」、「しかるってむずかしいですか?」、「がまんの心」を育てる、「思いやりの心」を育てる、「たくましい心」を育てる、「子どもがつまずいたときの子育て」の6項目を選び、それぞれについて、参加者が井戸端会議的な雰囲気の中で学習が進められるように、マニュアル編とワークシート編からなる「親の学びプログラム」が準備されました。

9月以降、県内各地で9回ほど「親の学びプログラム」を用いてモデル講座を行い、分析、評価、課題等の検討を試みた結果、時間の長さ、参加者数、ファシリテーターの個性等、いろいろな条件の違いによって流れ難い事が生ずるという指摘を受け、展開例に更に幾つかのコースを設け、臨機応変に進められるように工夫いたしました。

参加された保護者の皆さんにとって、子どもとの接し方、子どもの理解、しつけ、親子のコミュニケーション等の子育ての参考になればと願っております。

学習プログラム開発委員会委員長 中原 弘之

平成21年度 学習プログラム開発事業
「家庭教育ブックを活用した『親の学びプログラム』の開発と検証について
～家庭教育ブックを活用した親の学び講座～」

平成22年3月発行

編集・発行 財団法人 茨城県教育財団
茨城県水戸生涯学習センター
〒310-0054
茨城県水戸市愛宕町4-1
TEL 029-228-1313
FAX 029-228-1633